

<第2のふるさと自治体向けセミナー>

第2のふるさと概要説明

観光庁 観光地域振興部 観光資源課

課長補佐（総括） 丹下 涼

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

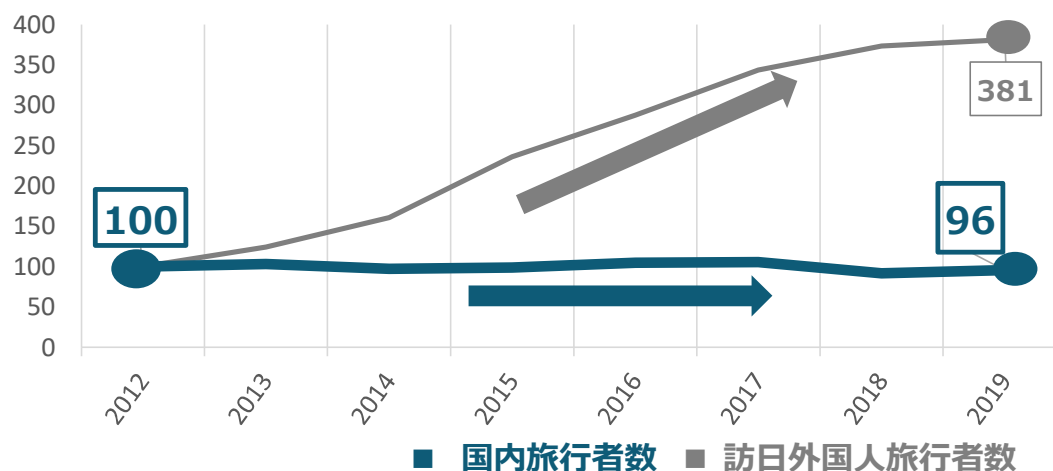
国内旅行市場を取り巻く環境

我が国の国内旅行市場は、拡大傾向にある訪日旅行需要に比べ、横ばい傾向が長らく継続。

国内宿泊旅行の需要を目的別にみると、「観光・レクリエーション」は6割に過ぎず、「出張・業務」「帰省・知人訪問」が残りの4割を占める。国内旅行市場を需要拡大に転じさせるためには、「観光・レクリエーション」目的以外の需要も含め、新たな交流市場の創出に取り組む必要。

<2012年～2019年> 2012年を起点とした場合の旅行需要の変動

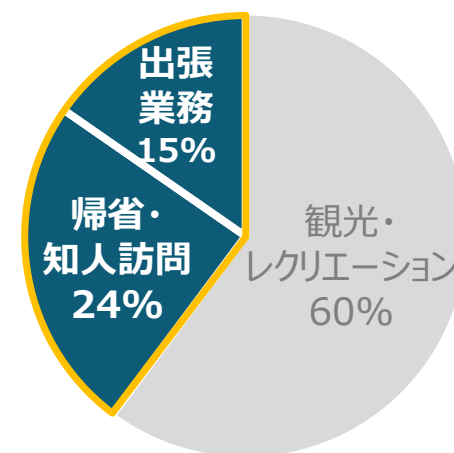
訪日旅行の拡大傾向に対して、国内旅行は横ばい傾向



出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」(2022年) JNTO「年別 訪日外客数, 出国日本人数の推移」(2022年)

<国内宿泊旅行> 『旅行目的』の内訳 (2023年)

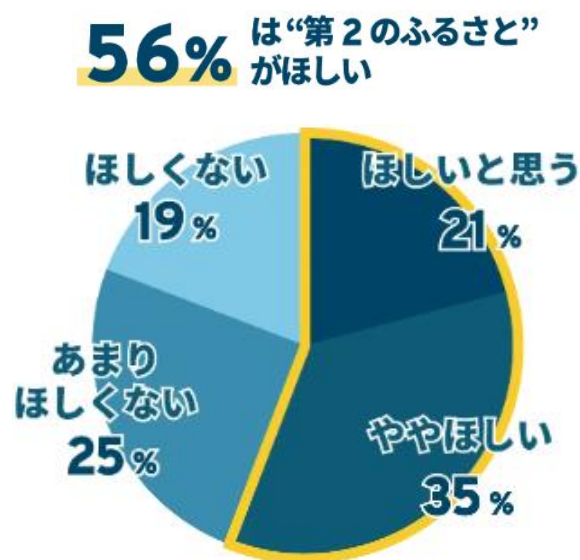
『帰省・知人訪問』『出張・業務』
による旅行需要は少ない



出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」(2023年)

観光庁『第2のふるさとづくりプロジェクト』について

- 感染症拡大による生活様式・価値観の変化、リモートワーク等の進展、田舎にあこがれを持つ若者の増加などにより、他者とのリアルな繋がりを求める動きが増大。地域資源に触れ、地域との関係性や参画が段階的に深まり、地域の関係人口化することで、自発的な来訪の高頻度化や滞在の長期化等が期待。
- 観光庁では、このような傾向の国内旅行市場への取り込みを目指し、何度もその地域を訪問する「来訪者と地域の関係人口化」を目指す『第2のふるさとづくりプロジェクト』を令和4年より立ち上げ。



● 観光スポットを巡る



これまでの旅のスタイル

● 非日常の体験



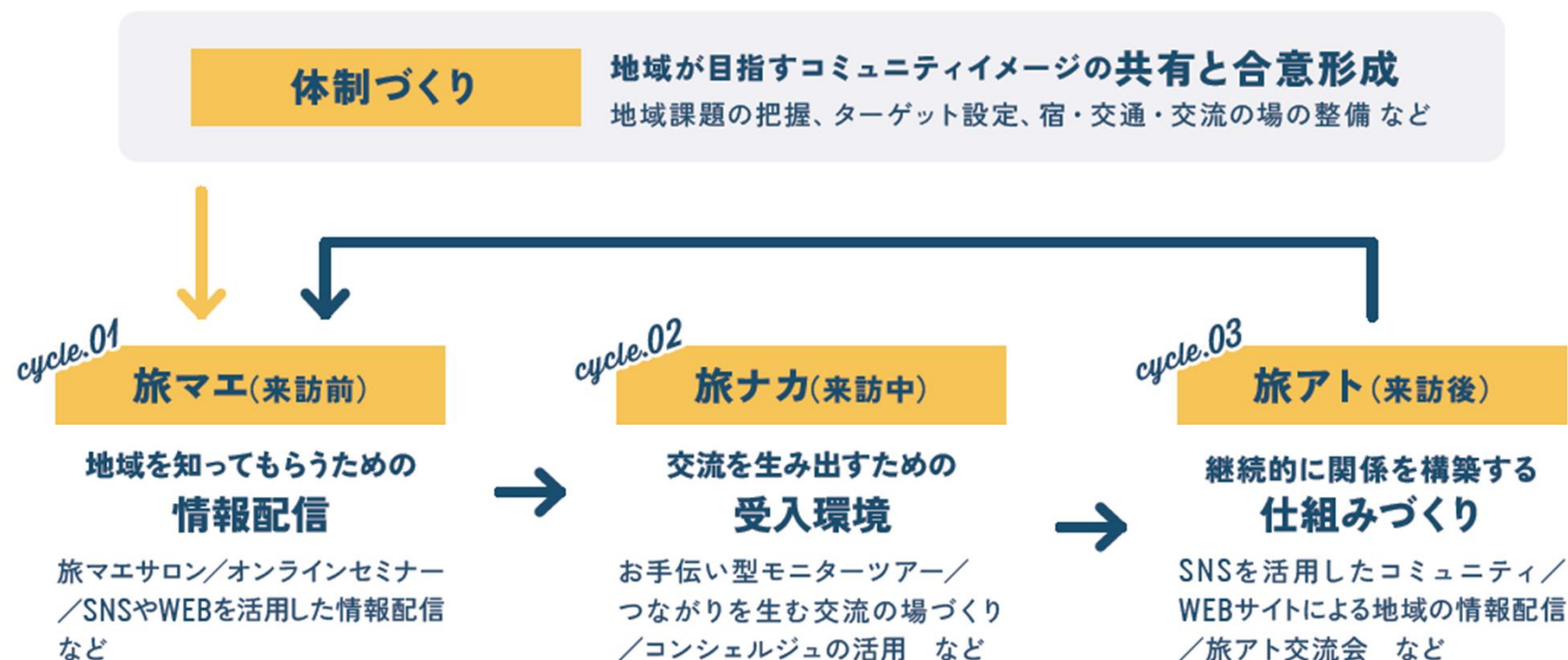
● 「地域のお客様」



『第2のふるさとづくりプロジェクト』が目指す循環型サイクル

- 本プロジェクトでは、「来訪者と地域の関係人口化」に向けたモデル事業を実施。
- 人や地域との交流をきっかけに何度もその地域の来訪を目指す取組を支援。

第2のふるさとづくりプロジェクトが目指す循環型サイクル



繰り返し来訪することによる関心の変化

○初来訪では、新たな発見や出会いが来訪意欲を創出

○来訪回数が上がるにつれ、地域行事や地域運営の参画など、地域の中で自らの役割を見出す項目に来訪意欲が変化

Q.

今回のモニターツアーの参加にあたって、どのような点を期待して参加されましたか？（複数回答可）

回答者： **初来訪者** **再来訪者**

初来訪者 回答上位5つ

- ・**新しい知識や経験を得たい** **47.6%**
- ・地域の人と交流したい 39.9%
- ・地域課題の解決など地域のためになることがしたい 36.1%
- ・愛着を持つことができる地域を見つけたい 35.1%
- ・地域づくりやイベントなどの手伝いをしたい 31.8%

再来訪者 回答上位5つ

- ・**地域づくりやイベントなどの手伝いをしたい** **41.5%**
- ・新しい知識や経験を得たい 37.7%
- ・愛着を持つことができる地域を見つけたい 34.0%
- ・地域課題の解決など地域のためになることがしたい 34.0%
- ・地域の人と交流したい 32.1%

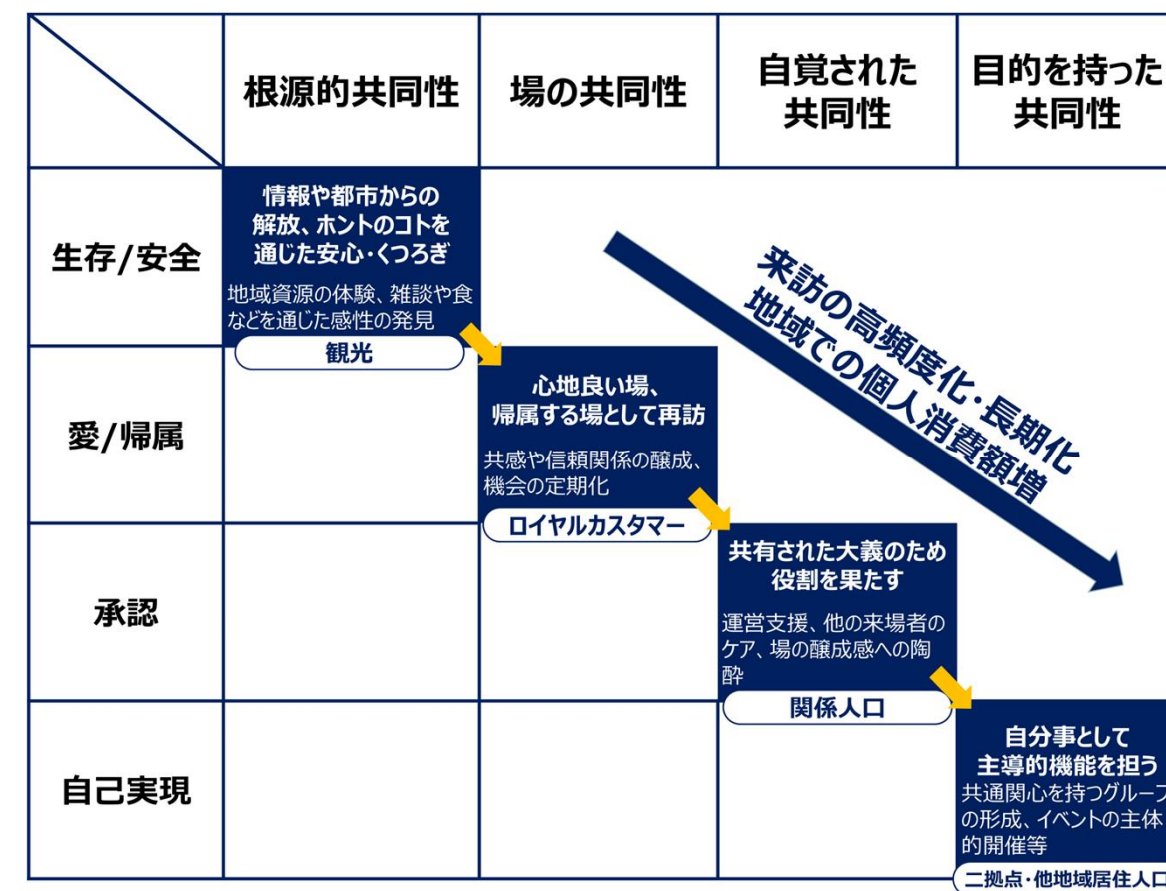
「第2のふるさとづくり」における地域と来訪者の関係性の変化

第2のふるさと
A NEW HOMETOWN

観光客が関係人口や多地域居住・二地域居住・移住層に緩やかに移行するプロセス（仮説）

関係性や地域参画の深化

顧客体験の深化、自己実現



『第2のふるさとづくりプロジェクト』の取組事例

- 令和4年度より、これまで累計36地域でモデル実証を実施。
- 第2のふるさとづくりは、関係人口化を通じた地方への継続的な来訪の創出を通じて、地域への観光消費の拡大のみならず、移住定住の促進や地域の観光産業の担い手確保に対する効果も期待。

地元住民との交流を通じて移住に繋げる好事例

香川県琴平町（株式会社地方創生）

※R5・R6事業

- 自身のスキルを地方に活かしたいビジネスパーソン等をターゲットに、地元住民の生業の体験や町で活躍するローカライノバーターとの交流等を行うコンテンツを造成。また、「複業兼業」で関われる仕事や「ボランティア活動」等、地域との関わりしとなる情報発信サイトを構築し、来訪後も地域と関われる環境も整備。
- 地域住民との人間関係構築を重視することで、モニターツアーに参加した1名が実際に琴平町へ移住に繋がった。



地域の観光産業の担い手確保に繋げる好事例

新潟県南魚沼市等（一般社団法人雪国観光圏）

※R4～R6事業

- 地域の複数の旅館・ホテル等を舞台として、受入側となる地域側は場（交流機会＋寝床）を無償で提供する代わりに、来訪者側はお手伝いワークを提供する、相互にGIVEの交換で関係性を育むスキームを構築。
- 地元住民との交流を通じて関係人口化された来訪者が、人手不足で悩む地域の旅館・ホテル等の人材確保に貢献。



京都府南丹市美山地区

（一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会）

※R4・R5事業

- 京阪神地域在住の大学生をターゲットに、美山地区に訪れる学生をまちづくりの協力者（準住民）と位置づけ、今まで地域にクローズされていた地域行事への参加をテーマにしたコンテンツを造成。
- 地域の茅刈り作業や鮎祭りの運営等のお手伝いを通じて、地元住民との交流を図ることで、モニターツアーに参加した学生1名が地域のDMOに就職。



福島県二本松市（一般社団法人岳温泉観光協会）

※R6事業

- 磐梯朝日国立公園を舞台に、アクティビティや自然学校を通して地域に関心を深めた層をターゲットとして、山道整備等の地域の保全活動に参加体験を造成。
- 更に、保全活動等への参加を通じ、この地へ通うことがライフスタイルとなる層に向けて、地域のガイドとして育成するプロセスを構築し、生業として地域に関わる人材の創出を目指す。



『第2のふるさとづくり』への関心層

第2のふるさと
A NEW HOMETOWN

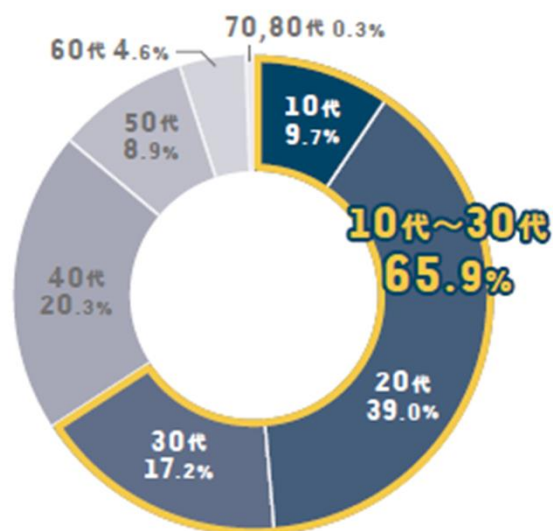
○過去の事業では10代～30代の若い層が65.9%を占めた

○年5回以上旅行に行く旅行に関心が高い層が中心だが、年に一度も旅行に行かない層も参加

Q.

あなたの
年齢をお選びください。

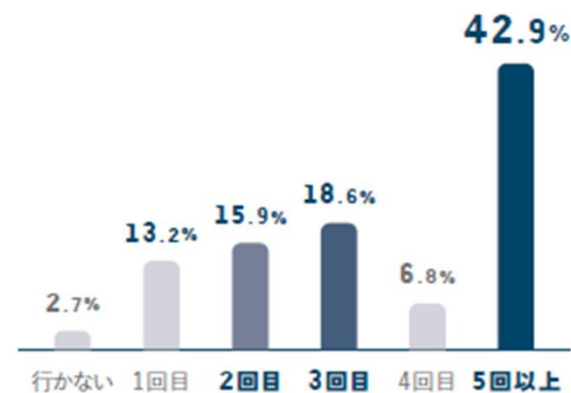
回答者： 初来訪者 再来訪者



Q.

年間で何回程度、宿泊を
伴う旅行に行けますか？

回答者： 初来訪者



- 過去2年間、地域との関係性の構築等により、来訪後も地域への関心を継続できる仕組みづくりを行い、自然環境への関心が高い層やふるさとを持たない若年層等に訴求するプログラムを造成。モデルツアー参画者による再来訪の実績が早期に現れた地域も。
- 一方、中長期に渡り継続的に多頻度での来訪を促すためには、地域と深めた関係性を前提とした来訪目的・来訪意欲の向上が重要となることから、より個別のターゲットニーズに着目した来訪機会を創出するモデルの構築に取り組む必要。



①継続的かつ多頻度での来訪を促す仕組みづくり

事業KPI：実証期間中に4回以上来訪した人を10人以上創出すること



②継続的かつ多頻度での来訪を促進するための滞在・移動環境の実証

- 地域との深い交流を生み出す交流拠点の構築のための実証
- 継続的かつ多頻度での来訪に適した宿泊環境/移動環境の整備のための実証
- 滞在期間中の地域内消費の拡大・地域との交流の深化を図るための移動環境の整備のための実証

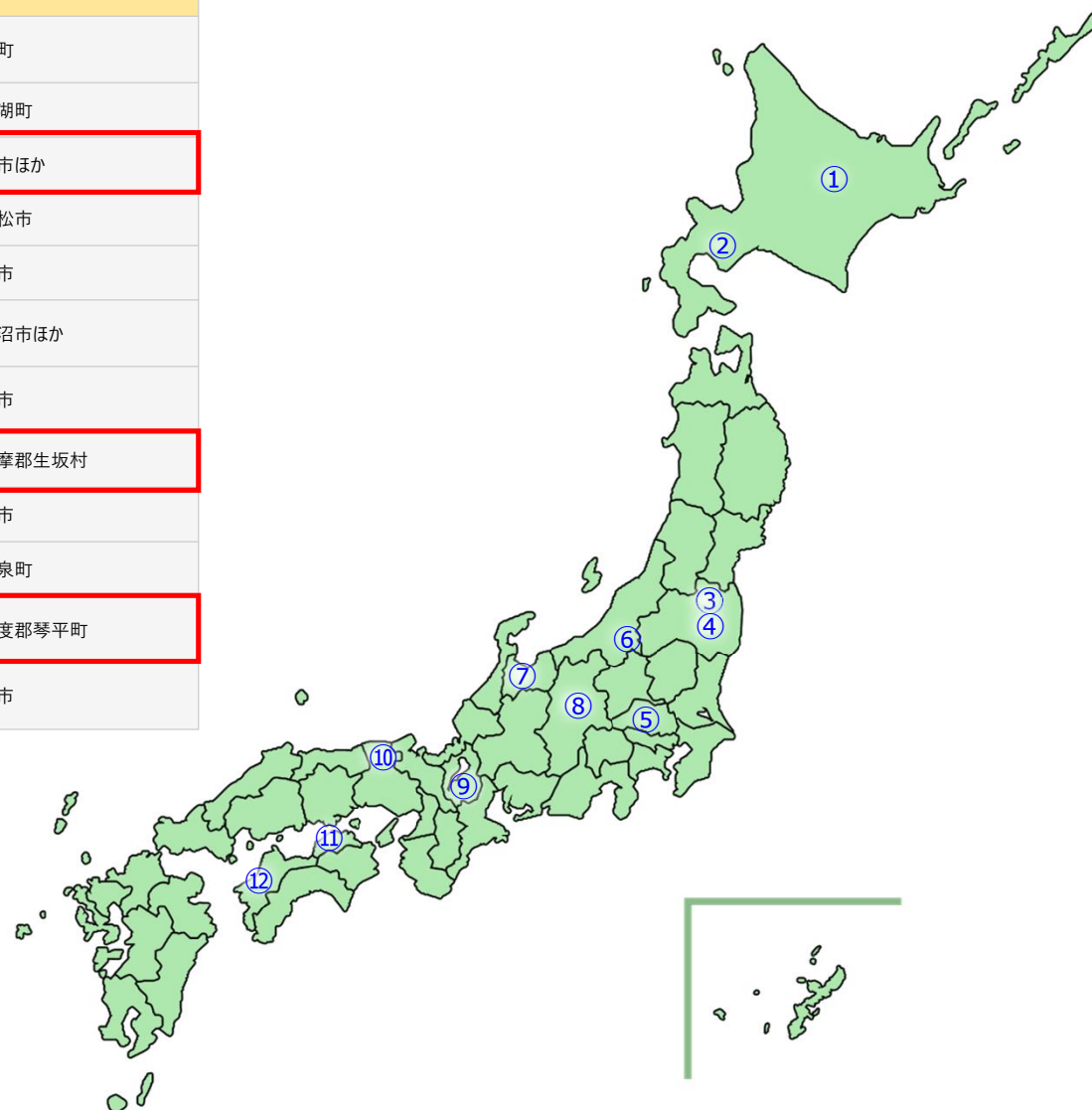


③「第2のふるさとづくり」に関する中長期的な方針・計画の作成

- 事業期間中に事業の自走化等の持続可能性の向上を図る観点から、中長期的な方針・計画を定めること

令和6年度 モデル実証事業 採択地域一覧

NO.	事業名	対象地域
①	先駆者や大学教授から「地方での起業」を学ぶことで、移住課題である収益確保の術を身に着ける観光プログラム～複数来訪をきっかけに“自分が暮らす、我が上川町”を創り出す～	北海道上川町
②	人を繋ぎ未来を創造する「トーヤの森」プロジェクト	北海道洞爺湖町
③	信達地方の蚕の糸が結ぶ文化と人～シルクロードが導く再来訪の仕組みづくり～	福島県福島市ほか
④	山でつながる山旅サポーター通い旅	福島県二本松市
⑤	年間300日以上祭りを開催！地域の象徴「祭り」をハブにコミュニティをつなぐプロジェクト	埼玉県秩父市
⑥	「地域に何度も通う旅・帰る旅」で地域を自分ごと化する関係“行動”人口創出プログラム in 雪国観光圏	新潟県南魚沼市ほか
⑦	つくる人をつくる in 「井波彫刻塾」－伝統と革新が混ざり合うまち井波で、“マスター”との出会いを通じたファンづくり事業	富山県南砺市
⑧	「自然再生で村おこし」共に学び育てる生坂村リジェネラティブツーリズム	長野県東筑摩郡生坂村
⑨	山と里とともに生きる奥金勝（おくこんぜ）「ファザーフォレストライフ」構築実証事業	滋賀県栗東市
⑩	新温泉町のファンが、次なるファンを創出していくための「新温泉町ローカルエストvol.2」	兵庫県新温泉町
⑪	濃度・深度にマッチした再来訪への仕組みづくりの深化を目指す琴平町観光マーケティング実証事業	香川県仲多度郡琴平町
⑫	来訪者が地域とつながり続ける持続可能な仕組みづくり事業～サステナブルシティを第2のふるさに～	愛媛県大洲市



令和7年度当初予算案における取組

※令和7年度決定予算概要資料より抜粋

関係人口化を通じた反復継続した来訪を創出する「第2のふるさとづくり」

- 令和4年度の事業創設以降、地域との交流・地域運営への参画等を通じて地域との繋がり創出を目的とした新たな旅のスタイルの構築に取り組んできたところ。令和7年度においては、**地域への経済波及効果に注目しつつ、持続的に事業継続可能な先駆的モデル事例の創出に取り組む。**
- また、『人と地域の関係人口化』のみならず、企業においても、地方への関心が高まっており、地域課題への接点を求め、ワーケーション等を通じて、地方とのより深い関係の構築を模索する企業が増加。このような傾向に対して、地域と企業の結びつきを強固なものとし継続的な来訪に繋げるため、『**企業と地域の関係人口化**』の促進に繋がるプログラムを『**企業版第2のふるさとづくり**』として、**企業をターゲットとした地域交流型の新たなプログラムの造成**を目指す。

人と地域の関係人口化

先駆的事例創出モデル

地域への経済波及効果の高さと事業の持続可能性を両立した新たな事業モデル等、これまでの第2のふるさとづくりプロジェクトでまだ組成できていない先駆的な事業モデルの創出を実施。

事業スキーム

事業形態：直轄事業 請負先：地方公共団体、DMO、民間事業者 等
事業期間：令和4年度～

企業と地域の関係人口化

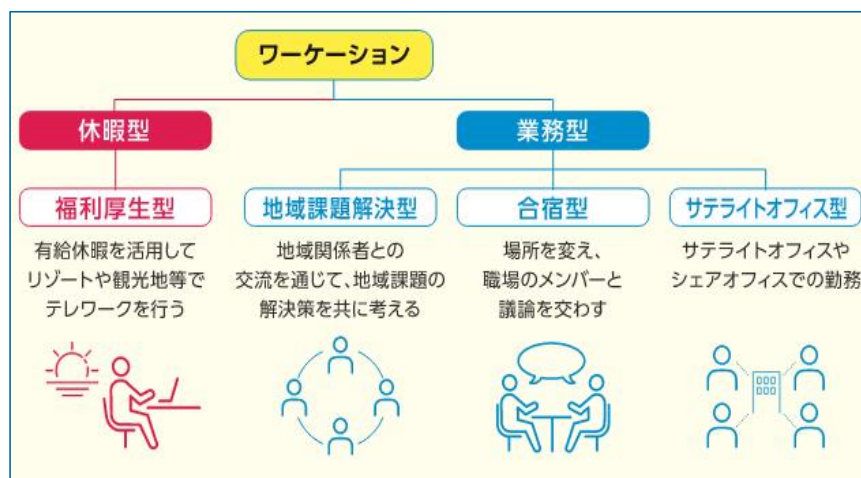
企業版第2のふるさとづくりモデル

地域課題の解決など、企業の関心が高いテーマに関して地域との交流を通じて学ぶ体験型プログラムを造成し、滞在を通して知見を企業が地域に還元していく「企業の関係人口化」に向けたモデル事例創出を実施。

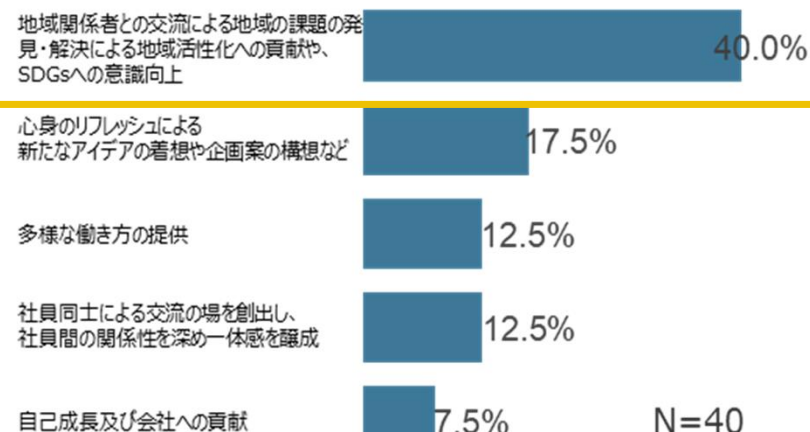
企業からニーズの高いワーケーションモデルの構築に向けて

- ワーケーションの形態では、単に余暇期間を活用したテレワーク(福利厚生型)だけでなく、業務の一環として、地域貢献を目的とした地域課題の解決をテーマにしたワーケーション(地域課題解決型)や職場内のチームワークの向上やスキルアップを目的としたワーケーション(合宿型)等によるものも存在。
- 送り手となる企業からは、福利厚生型よりも、地域課題解決型や合宿型へのニーズが高い。観光庁でも令和5年度事業において企業からニーズが高いモデルの構築を実施。

ワーケーションの類型



ワーケーションで実現できそうな効果



(出典) 観光庁調査

宮城県釜石市

企業-地域の協働による地域課題解決型ワーケーション

- ✓ 釜石市は、震災復興が着実に進む一方、人口減少による地域産業が衰退し、交通サービスの低下など地域課題が表面化。
- ✓ こうした生の地域課題に触れることを目的に、地域創生への意欲が高い企業を誘致・地域課題とのマッチングを実践。
- ✓ また、参加企業に対して、震災の記憶追体験プログラムや漁業体験、海洋保全学習プログラムを組み込む事で、釜石の魅力が体験できるワーケーションプログラムを実施。



【NTT東日本・NEC】
ワーケーションテーマ：水産業

「水産業をテーマに、地域課題に触れるワーケーションを実施したい。」

「新たな特産品としてジビエを取り扱ってはどうか？」と考える企業側の意見に対して、地域側の意見をすり合わせてプログラム内容へ反映

行政・地域事業者と交流
現地ワーケーション

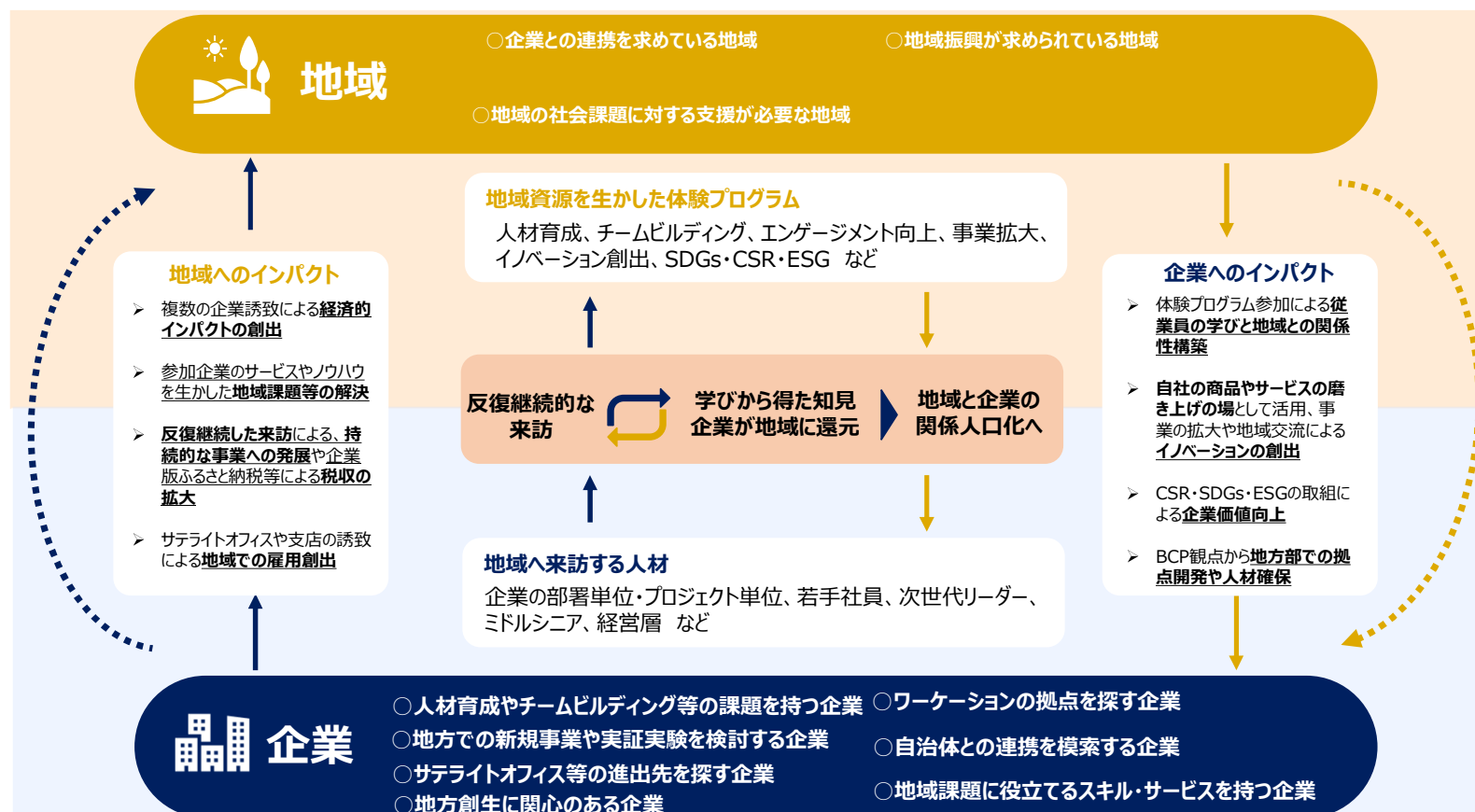
漁協に対し、自社ソリューション（IT技術）を用いた
畜養ウニ養殖の効率化および新たな養殖事業を提案

「企業版第2のふるさとプロジェクト」が目指す方向性

第2のふるさと
A NEW HOMETOWN

○過年度取り組んできた業務型ワーケーションからより地域と企業の強い結びつきを構築するプログラム造成に取り組み、地域への反復継続的な来訪に繋げる。

○具体的には、地域課題やSDGs・ESG、イノベーションなど、地域が提供する企業の関心度が高い体験型プログラムを通じて、学びから得た知見を企業が地域に還元していく「企業の関係人口化」に向けたモデル事例創出を支援。



採択事業(モデル3実証事業者)と 取り組みのご紹介

第2のふるさと
A NEW HOMETOWN

信達地方の蚕の糸が結ぶ文化と人 ～シルクロードが導く再来訪の仕組みづくり～

福島市

福島市フルーツラインエリア観光推進協議会

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

福島市フルーツラインエリア観光推進協議会とは

【団体概要】

福島市内の個人、団体、事業者等が協力連携し、フルーツラインエリアの観光振興・発展及び地域住民の生活の向上に寄与することを目的として2021年6月に設立。



〈信達地方〉

福島市の旧信夫郡と旧伊達郡にまたがる阿武隈川沿いの地域

〈構成員〉

(株)ファーマーズ・フォレスト福島支店
飯坂温泉観光協会
NPO法人土湯温泉観光協会
高湯温泉観光協会
万世大路を守る会
NPO法人いいざかサポーターズクラブ
など



【地域資源の再発見】

一般的な観光資源)

- ・福島市といえば・・・消費量全国1位を誇るモモなどの「フルーツ王国」など

協議会としての観光資源)

- ・他地域との差別化を意識した地域資源調査(ヒストリカルブランディングの観点)

➡市内に広がる果樹園は、かつては桑畑だった＝養蚕が地域経済を支えていた歴史

特徴1)養蚕から織物までの一貫した流れ(製糸は除く)が残っている地域は全国的に限られている

特徴2)養蚕は、1か月サイクル、5月下旬から10月上旬までの期間で4～5回のチャンスがある

特徴3)織物は、技術習得と制作に時間がかかるため、何度も通う必要がある

特徴4)それぞれの事業者がまだ営んでいる(昔ながらの手法含め)が

産業としては難しい状況＝「文化」として残していくためには何ができるのか？

➡観光の切り口から何度も来ていただく交流人口を増やしてみてもどうか？

➡第二のふるさとづくりプロジェクトと合致

〈検証する仮説〉

- ・ 再来訪には、**インプットとアウトプット**ができるコンテンツを提供することが必要ではないか。
- ・ **高頻度来訪者**には、より**自由度**（参加の余地や選択肢）を持たせた受け入れ環境の整備が有効ではないか。
- ・ **文化の振興**には、**観光という切り口からのアプローチ**も有効なのではないか？
（観光による地場産業の活性化及び交流人口の拡大が文化の継承に寄与するのでは？）

〈取組概要〉

本事業では、「ふくしまの養蚕や織物の文化には価値がある」という想いに共感した方々が集い、そのコンテンツとしての特性を活かしながら文化として残していくための普及啓発や交流人口の受け入れに向けた取り組みを行った。

- （1）ダイレクトな広報戦略【旅マエ】
- （2）予約や来訪者数把握のDX化【旅マエ】
- （3）来訪目標頻度に合わせたプランの造成と提供【旅ナカ】
- （4）既存の公共施設を活かした交流拠点づくり【旅ナカ】
- （5）再来訪イベントの開催【旅アト】
- （6）文化振興活動【旅アト】

〈実施体制〉

福島市フルーツラインエリア観光推進協議会／福島市／（一社）福島市観光コンベンション協会DMO／工房おりをり／（株）ファーマーズ・フォレスト福島支店／福島学院大学／福島大学／東和地域グリーンツーリズム推進協議会／（一社）日本ファッション協会／福島県絹人織織物構造改善工業組合など

(3) 来訪目標頻度に合わせてプランの造成と提供【旅ナカ】

① 再来訪者にとって自由度の高い滞在・宿泊環境の提供プラン

【来訪目標頻度】 4回以上(8名:福島県内6名、栃木県1名、千葉県1名)

【ターゲット】 首都圏の郊外に在住している40～60代の女性

【内容】・デユースプランと宿泊プランの設定(2週間、1ヶ月のサブスク利用も可)

- ・滞在期間中の貢献度に応じた報酬制度(食事、宿泊、体験、講習など)
- ・再来訪イベントや出前講座のスタッフとしての関わり など

② ファッション関係者向けのプラン

【来訪目標頻度】 3回以上(0名:2回は5名)

【ターゲット】 ファッション関連の学生および一般

【内容】・オンラインの事前交流会

- ・2泊3日のツアー参加(14名:福島県2名、山形県1名、群馬県1名、埼玉県1名、東京都6名、神奈川県1名、京都2名)
- ・再来訪イベントでの作品制作・展示
- ・出前講座のスタッフとしての関わり など

③ 初来訪者向けツアープラン

【来訪目標頻度】 2回以上(1名:東京都)

【ターゲット】 都内近郊のタワーマンション居住者等

【内容】・事前WSの実施

- ・1泊2日のツアー参加(4名)
- ・再来訪イベントへの参加

【来訪者数(アプリでの集計)】

期間: R. 6. 8月～R 7. 1月】

1回訪問: 154名

2回訪問: 43/154名(28%)

3回訪問: 18/154名(12%)

4回以上: 8/154名(5%)



来場者実績:2,284名(サポートスタッフ29名:福島県内26名、東京都2名、千葉県1名)



(5)再来訪イベントの開催【旅アート】

ふくしま絹の道フェスタin福島市民家園での ツアー参加者による作品展示

再来訪者5名／14名 ※その他の方は郵送等で作品を提出
イベント内で来場者に対するプレゼンテーションの場を設けた



石井 由夏さん

テーマがシルクということで、どんな作品を作り上げるか着地するまでが難しかったです。制作期間は構想を含めると2週間くらい。いくつか試作品を経て、辿り着いたという感じです。今回、アートのようなモノを作りたかったので、和紙などを用いて柄や風合いを出しつつ仕上げました。展示する場所の背景によって表情が変わるような、そんな作品になったのではと思います。

山越 純子さん

福島県の県花であるネモトシャクナゲを毛羽で再現して作りました。どんな作品を作ろうかと思って考えていた時に、この花が毛羽と似ているなと思い作品として表現できるかなと思いました。ツアーに参加した際に、繭毛羽は熱を加えると固まることを教えていただいたことを取り入れながら、制作していき、草木染めで色をつけて仕上げています。あと、もうひとつのお題であった福島紬は葉っぱの部分に活かしました。



【来訪を促す仕掛け①:イベント】

ねらい)

- ・来場者と関係事業者との交流機会の創出
- ・地域内外の関係事業者同士の交流促進・活性化
- ・ツアーで初来した方でも作品の展示やスタッフとして関われる参加型のイベント
- ・年に1回開催することで、再来訪の機会創出に寄与
- ・地元の方に参加していただくことで、インナーブランドの形成強化につなげる
- ・メディアの発信力を活用する

効果)

- ・イベントへの再来訪の理由(複数回答可)としては、再来訪者数に占める割合として、高い順に「知識や技術を得たいから(70%)」、「関係者に会いたいから(50%)」、「応援したいから(50%)」、「土地柄が好きになったから(20%)」、「今住んでいるところがないものがあるから(20%)」、「その他(20%)」となった。
- ・福島における「養蚕や織物」の印象が良い方に変わったという回答は、93%であった。
- ・イベント来場者数の2,284名(同時開催した民家園秋祭りのこれまでの最大来場者数1,905名を更新)
- ・全国放送ではないものの地元新聞社やテレビ局などメディアへの掲載・放送によるPR効果

※上記アンケート結果は、来場者への無作為のサンプリング調査(N=42)による

(6)文化振興活動【旅アト】

出前講座：ふくしま絹の道ワークショップ

目的：①文化の継承：インナーブランディング（受け入れ環境整備の一環として）

②人材育成、③再来訪機会の創出

開催期間：2024年9月～2025年1月中

場所：福島市、川俣町、伊達市、二本松市、その他市内の学校、社会教育施設など

実施件数：10件

開催時のアシスタント人数：1～3名程度 計23名が参加（重複あり、県内・千葉県）

※新規教材開発：福島大学に依頼、カルタや絵本の制作も制作した



【来訪を促す仕掛け②:出前講座のアシスタント】

ねらい)

- ・再来訪者の**実習の場(アウトプット)**の提供
- ・事業者の**人手不足の解消・人材育成**
- ・年に複数回開催することで、**再来訪の機会創出**に寄与
- ・地元の方にむけた講座を開くことで、**インナーブランドの形成強化**につなげる
- ・学校教育や社会教育、福祉サービスなど**公共サービスへの波及効果**が期待できる

効果)

- ・スタッフへの**参加理由**としては、自分の学びとなること、参加者との交流が多くあげられた。
- ・またアシスタントとして参加してみたいかという意向については、**すべての方が参加してみたい**という回答であった。
- ・年間でどれくらいの頻度で参加してみたいかという質問については、多い順から「**4回以上(48%)**」、「**2回(26%)**」、「**3回(22%)**」、「**1回(4%)**」であった。
- ・アシスタントの報酬として好ましいもの(複数回答可)は、多い順から「**講習(83%)**」、「**体験(57%)**」、「**食事(52%)**」、「**お金(22%)**」、「**宿泊(17%)**」、「**不要(17%)**」

※上記アンケート結果は、サポートスタッフへのアンケート調査(N=23、同一人物含む)による

【自治体との関わり方】

【関係自治体】

・福島市 ・福島県（民間レベルでの連携：川俣町、二本松市、伊達市）

【関わり方】

福島市）

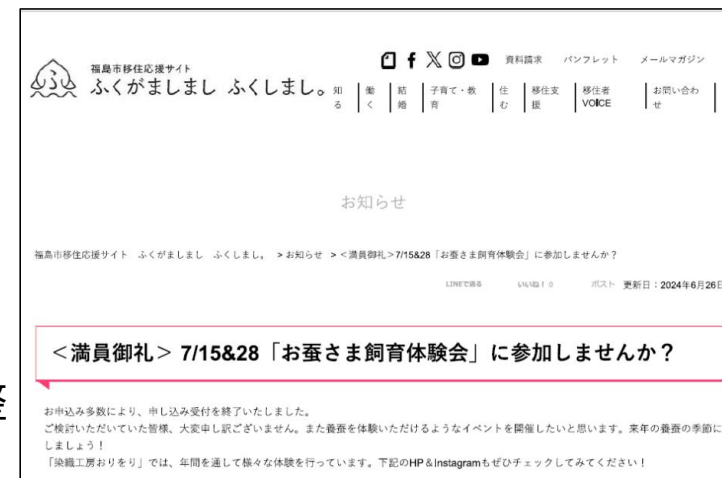
- ・観光交流推進室⇒本事業の広報活動、視察対応調整、庁内担当課との調整
- ・定住交流課⇒受け入れ事業者と別事業の展開 ※移住定住者向け体験会
- ・文化振興課⇒既存施設の交流拠点化に向けた検討会、イベント会場提供
- ・教育総務課⇒製作教材の寄贈対応（小学校・支援学校、図書館、学習センター）

福島市内の自治体関係機関）

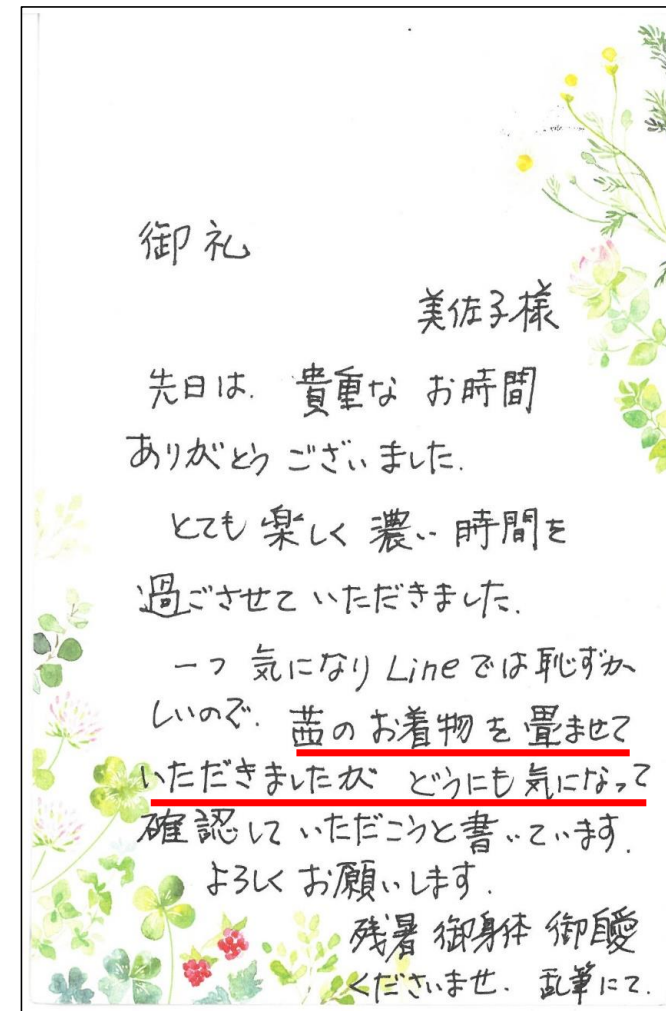
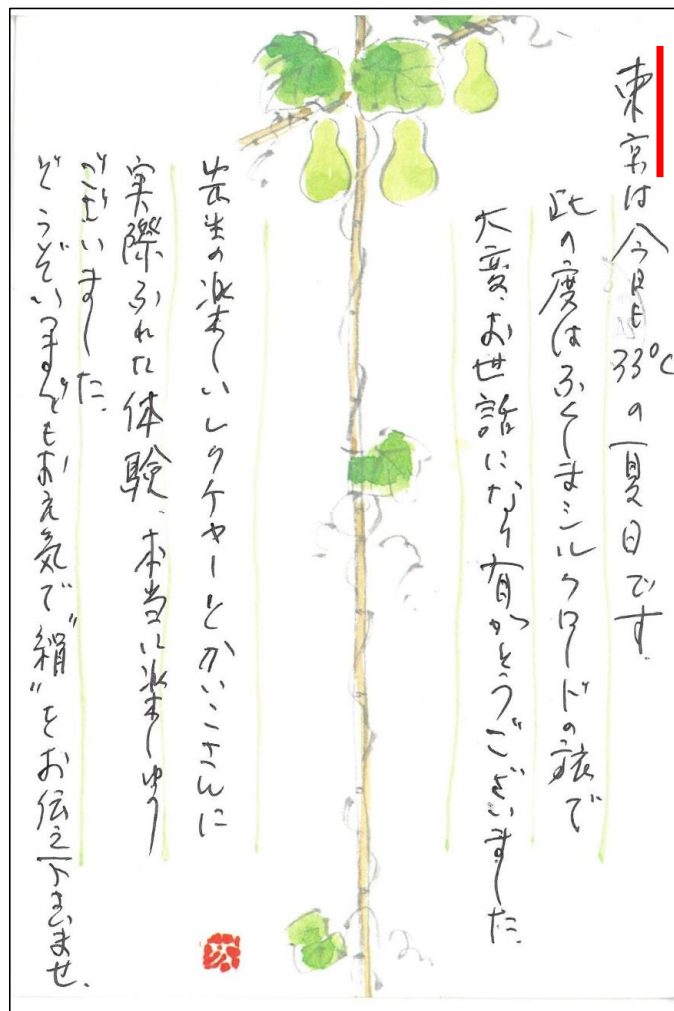
- ・道の駅ふくしま（公設民営）⇒イベントへの備品貸し出し、広報活動支援、養蚕の副産物を活用した商品販売
- ・福島市観光コンベンション協会⇒広報活動、事業支援

福島県）

- ・園芸課⇒イベントの後援



ご清聴ありがとうございました。



濃度・深度にマッチした再来訪への仕組みづくりの深化を目指す
琴平町観光マーケティング実証事業

香川県仲多度郡琴平町

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

香川県琴平町で「濃度・深度にマッチした再来訪への仕組みづくり」を実証。
町のアルバイトやボランティア活動などの関わりしるをマッチングすることで反復継続した来訪機会を創出。
地元交通事業者と連携し、高速バス乗り放題プランの開発や地域共有交通「mobi」を活用。

【令和6年度事業のポイント】

- ①「地域の一員」として町への貢献を生み出すプログラムを造成。
- ②滞在中に対価を得るだけではない、貢献・交流機会としての「仕事」や「お手伝い」の場の提供。
- ③自主的な来訪促進のために、地元交通事業者と連携し、「**高速バス＋地域共有交通＋ワークスペース使い放題**」のサービスを販売。
- ④宿泊事業者と連携し、ベッドメイキングや清掃作業などをセットにし**宿泊の割引サービスを提供。**

交流
機会



交流拠点
(ヤド)



一次交通
(アシ)



二次交通
(アシ)



- ◎移動費・宿泊費の軽減を図るだけでなく、町との交流機会の提供により再来訪のきっかけづくりも図る。
- ◎現地で働き、稼ぐことが出来るしくみづくりを行うとともに、町側の受入の輪の拡大も図る。



①「学生向けプログラム」参加者:6名、4回以上来訪:6名

- ・地元のお店や地域イベントのお手伝いをしながら交流
- ・町の魅力の発信や「小さな観光大使」として新規来訪者に町の楽しさを伝えた



②「演劇祭イベントに参加するプログラム」参加者:2名、4回以上来訪:2名

- ・町の滞在拠点(アーティストinレジデンス)で演劇の稽古を実施
- ・12月の演劇祭本番に演者として出演



③「持続可能な町を作る企業向けプログラム」参加者:33名、4回以上来訪:2名

- ・“自然で楽しい脱炭素行動”を目指す「関西電力CQプロジェクト」と連携
- ・オンラインや現地での打ち合わせを重ね、町の課題解決プロジェクトを進める



④「町の屋台を作るDIYプログラム」参加者:5名、4回以上来訪:4名

- ・町の滞在拠点(アーティストinレジデンス)で屋台を制作
- ・制作した屋台は最終回で町内に出店し、地域の方や観光客と交流



①宿泊割引プランの提供

SNS発信のお手伝いをすることで宿泊価格を割引するプランを提供。施設の説明や琴平の案内に関する投稿の素材づくりにチャレンジ。情報収集からデザイン、翻訳を含む文章作成に取り組んだ。(1室4,500円から1,500円に割引)

→延べ7名が割引プランで宿泊



②フリーアコモデーションの実証

年末年始に町のお手伝いに来ていただいた学生に向け、空き施設を無料で開放。部屋の清掃やベッドメイキングは各自で行いながら滞在してもらった。

→延べ13名がフリーアコモデーションで宿泊



②地域のお手伝いの事前マッチング

プログラム中に、地域のお仕事を手伝ってもらい、特典として報酬をご用意。お盆や年末年始などの繁忙期に人材不足の課題を抱える事業者のニーズもあった。→9事業者が受け入れ



年間パスポートの試験的販売

〈セット内容〉

- ・大阪 - 琴平間の往復高速バスの使い放題（一次交通）
- ・地域共有交通「琴平mobi」の使い放題（二次交通）
- ・「コトリ コワーキング&ホテル琴平」のコワーキングスペース使い放題

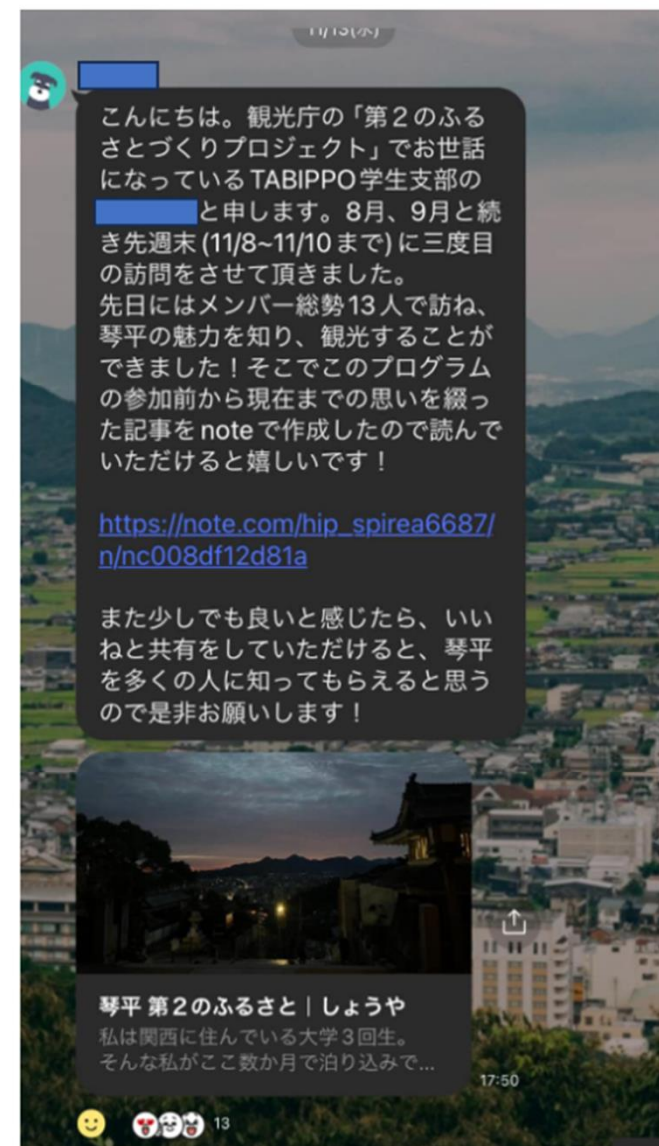
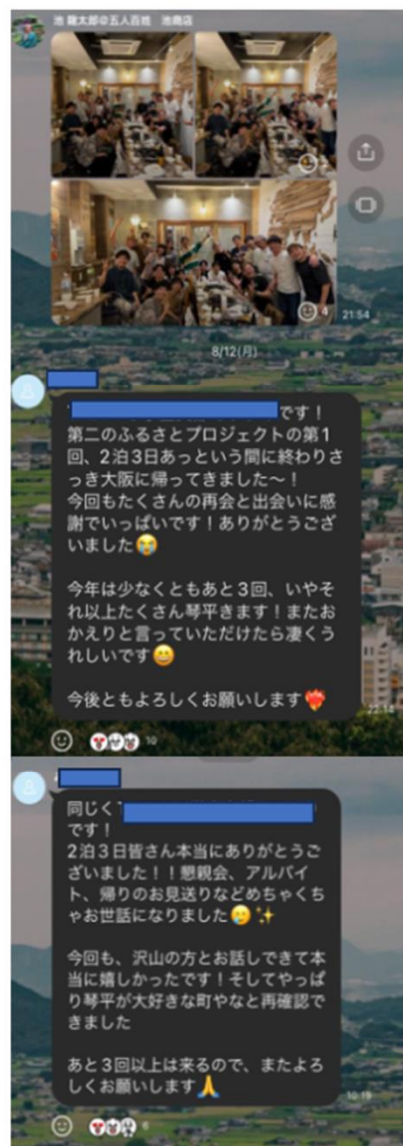


※販売価格は22,500円。自主的な地域への関わりを促すことを目的とし、各4回開催するプログラムとは別に、自発的に琴平町に来てもらうような仕組みとして活用。

本事業における販売状況

- ・年間パスポート購入者数：7名
- ・高速バス延べ乗車回数：35往復
- ・1名あたり的高速バス平均乗車回数：5往復





参加者の心境の変化（思い出の1枚📷）

第2のふるさと
A NEW HOMETOWN



11月に新規の参加者を連れて、自身が案内しながら登ったこんぴらさんでの1枚。8月の初回来訪の時、お土産屋さんの店主から聞いたこんぴらさんの楽しみ方を自分の言葉で伝えながら案内し、小さな観光大使になれた。



8月に町の喫茶店で食べた豪華定食メニューを撮った1枚。店員さんに、予算のみを伝えてオリジナルメニューを作ってもらえたことで、楽しく地域で消費が出来たことがとても心に残っている。他にも、滞在する際は絶対に足を運ぶお気に入りのお店がいくつもできた。



8月、半年ぶりに会えたお土産屋さんの看板娘と撮った1枚。今回のプログラムで店のお手伝いも出来、お客さんを迎える側として、お店の一員になれたことがうれしかった。来るたびにお店に通い、親戚のように子供の成長を見守ることができるのが楽しみだった。



11月のイベントで、偶然知人に会えた時の1枚。写真の中に、毎回お世話になっている町の方も写っており、琴平は人が集まる町であり、人のつながりが広げられる素敵な町だと再認識した。



11月の回で参加者以外にも沢山の方と出会え、翌日早朝に皆で登った1枚。人との交流や、プログラムを通して町のことを深く知ることができたことで、地域への関心が深まり、もっと日本や地域を良くしたい、と漠然ながらもこれからやっていきたいことが明確になった。



すっかり帰る場所となったレストランでの1枚。プログラムが終わっても、絶対にまた会いに来て係わり続けたい。この町の魅力を周りの人に伝えて、自分のように楽しんでもらえるような人を増やしていきたいと思った。

「自然再生で村おこし」
共に学び育てるリジェネラティブツーリズム

長野県東筑摩郡生坂村

第2のふるさと

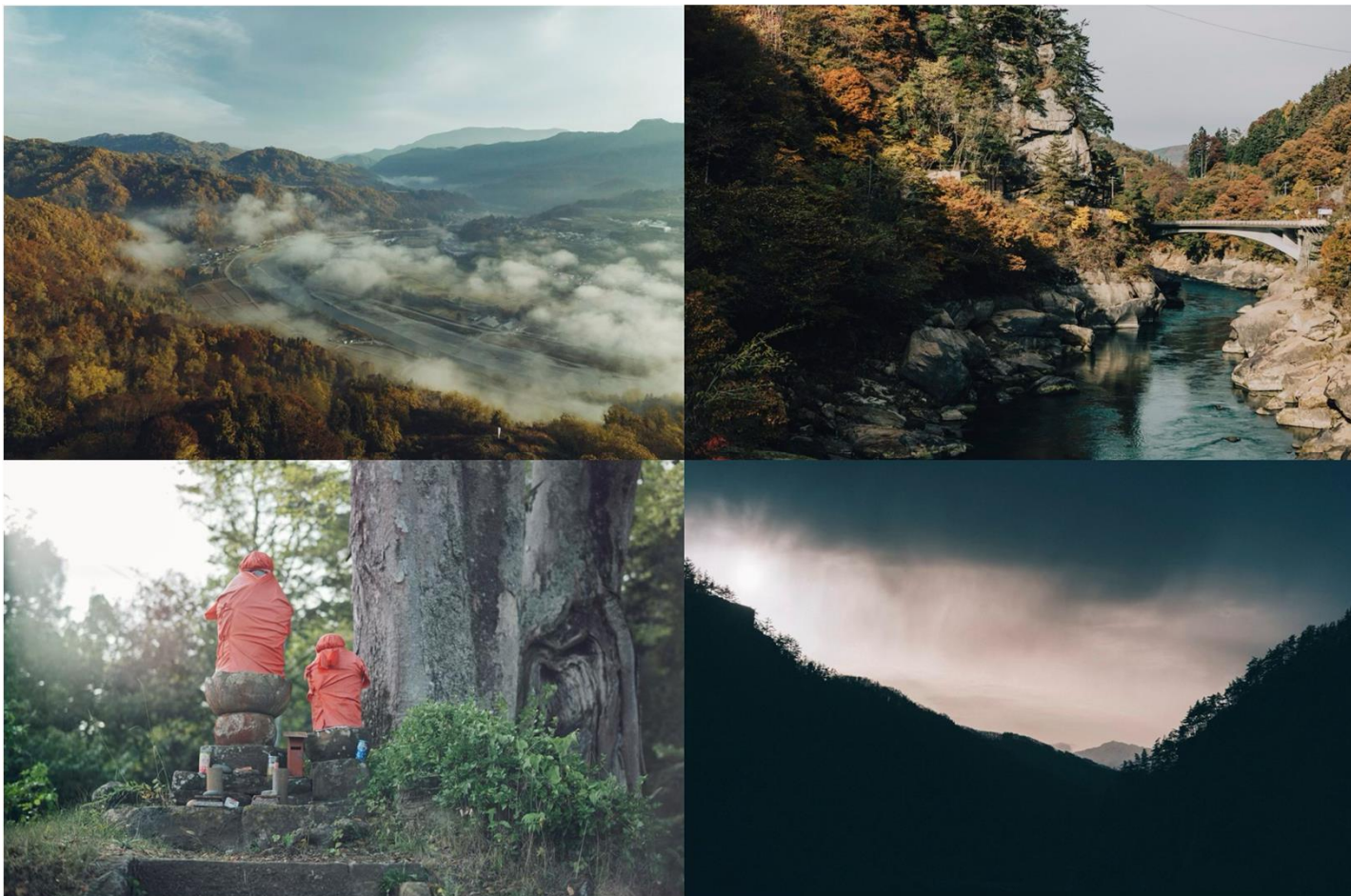
A NEW HOMETOWN



生坂村ってどんなところ？



長野県のちょうど真ん中に位置する長野県生坂村。
東京都23区の江東区とほぼ同じ大きさで、長野県の市町村の中では5番目に小さなこの村の人口は約1,633人。
犀川の清流と溪谷美の山清路、雄大な大城・京ヶ倉など、
水辺と里山が織りなす美しい自然に囲まれ、村全体が溪谷のような景観を呈する風光明媚な村、それが生坂村です。





生坂村は金戸山百体観音や樹齢800有余年の乳房イチョウなど貴重な歴史・伝統文化があり、ぶどう、灰焼きおやき、おにかけ（手打ちうどん）、干し柿などの独自の食文化も大切に受け継がれています。景勝地である山清路には、『まんが日本昔ばなし』の主題歌で有名な「龍の小太郎」の伝説が残っています。住民たちは、先人達が守り育てた自然と伝統の共生の精神を受け継ぎ、地域の絆を深めながら心豊かに暮らしています。



長野県生坂村を舞台に企業連携による新たな観光プロジェクトを始動

いくさか『創造の森』リジェネラティブ・ツーリズム

◇事業の背景

「ゼロカーボンビレッジ」を掲げる生坂村を舞台に「生物多様性と自然再生」がテーマのプログラムを造成。村の自然づくりを地域住民と共に取組む。プログラム造成は専門家の協力を得て、修了認定型のスクール形式で行う。自然の知識を学び、村の環境調査体験から自然再生のためのアクション体験まで年間を通じ実施。自然再生の先にある新しい村の姿を想像し、実現に向けて交流を介しながら「何度も訪れたくなる」村づくりを進める。これを「生坂村版リジェネラティブツーリズム」とし、自然や地域に愛着を持つ人々との交流を深めると同時に企業や各種団体が観光×環境×まちづくりの新たなプロセスとして応援したくなる仕組みづくりにも取り組みました。

◇事業概要

- 本プロジェクトは観光庁「第2のふるさとづくりプロジェクト」モデル実証事業の一環として企画されたもので、テーマは「ネイチャーポジティブと何度も訪れたくなるふるさとづくり」。
- 生坂村 / (株) 松本山雅 / クラブツーリズム (株) / (株) フューチャーセッションズ / (合) HiTTiSYO / (株) 大広の5つの企業がコンソーシアム形式で協力して進めています。



<https://tabisuruikimono.com/>



いくさか『創造の森』イメージ図

このプロジェクトの特徴は以下の通りです

1. 生坂村公式自然研究員（ネイチャーフェロー）

全6回で開催されるツアー終了後には、参加者を「**生坂村公式自然研究員（ネイチャーフェロー）**」として認定し、彼らが地域の自然保護活動に積極的に参加することを奨励します。

2. 多様な体験の提供

生き物の生態や自然の知識を学ぶだけでなく、実際に自然調査や再生活動に参加することで、深い理解と実践的なスキルを身につけることができます。

3. 地域との交流

各回のツアーに地元ゲストを招き、トークディスカッションを行います。村内の方々との交流を通じて、地域の文化や課題について理解を深める機会が設けられています。

4. 専門家によるガイダンス

立教大学の奇二正彦准教授を講師に迎え、学術的な裏付けのある内容が提供されます。

5. スポーツとの連携

生坂村をホームタウンとするリーグチーム・株式会社松本山雅からもガイド候補生が参加し、スポーツと環境保護の融合という新しい視点も提供されます。

6. 前泊・後泊のオプションツアーで

ツアーの前後でオプションツアーを企画。地元の古民家での交流会やいくさか『創造の森』で焚き火を囲ってのBBQ、地元民が案内する村内周遊ツアーを任意参加で行いました。

いくさか『創造の森』プロジェクトとは？

第2のふるさと
A NEW HOMETOWN

生坂村『創造の森』イメージ図

遊ぶように暮らそう！

いくさか『創造の森』プロジェクト

ここ生坂村『創造の森』はエコロジカルなライフスタイルを実践し、提唱する場。そして地域住民が自由に出入りできる『地域の縁側』。ここにはさまざまな手仕事があります。さまざまな手仕事はコミュニティを円滑にし、遊ぶように仕事をすることを可能とします。持続可能な村。それはあなたと家族、あなたの愛する人すべてが続く未来であります。遊ぶように暮らそうここ生坂村で。



中山間地域の里地里山

災害に強い自給自足型の地域コミュニティ

未来を担う地域の子どもたちが主役

伝統文化と最新技術の融合

◇事業の内容

- ここで約半年間、全6回にわたるツアーが実施されました。ツアーでは放置竹林の間伐や自然保護活動を体験しながら、地域住民との交流、オンラインでの座学などを通じて【脱炭素】や【生物多様性】についても学ぶ内容になっています。
- 参加者は「生坂村公式自然研究員(ネイチャーフェロー)」に認定され、ツアー後も地域との関わりを続ける予定です。観光庁の「第2のふるさとづくり」の実証事業の一環でもあり、ツアーを通じて関係人口の増加につなげることが狙いです。「旅」と「移住」の間の新しいライフスタイルを提案するツアーとして、企業や学校の研修としての利用も想定しています。

第1回	9月15日(日) 12:00現地集合/17:00現地解散	現地開催 (生坂村)	生坂村現地調査① いくさか「創造の森」を調査してみよう!	3,000円 (学生1,500円)
第2回	10月6日(日) 12:00現地集合/17:00現地解散	現地開催 (生坂村)	生坂村現地調査② いくさか「創造の森」を調査してみよう!	3,000円 (学生1,500円)
第3回	11月10日(日) 19:00開始/20:30終了	オンライン 開催	調査報告&アクションプランを 考えてみよう!	一律500円
第4回	11月30日(土) 12:00現地集合/17:00現地解散	現地開催 (生坂村)	実際にいくさか「創造の森」に手を加えてみよう!① アクションプランの実践会	3,000円 (学生1,500円)
第5回	12月14日(土) 12:00現地集合/17:00現地解散	現地開催 (生坂村)	実際にいくさか「創造の森」に手を加えてみよう!② アクションプランの実践会	3,000円 (学生1,500円)
第6回	1月11日(土) 12:00現地集合/17:00現地解散	現地開催 or オンライン開催 ※選択可	研究員(リサーチフェロー)修了式& アクション発表会	現地参加 3,000円(学生1,500円) オンライン参加 一律500円

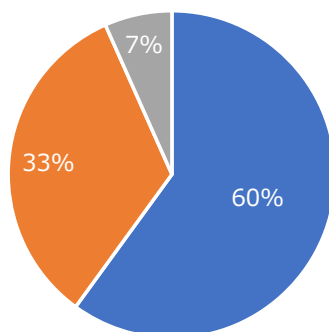
最大20名を想定して応募開始

応募期間：7月19日～8月30日

応募総数：34名

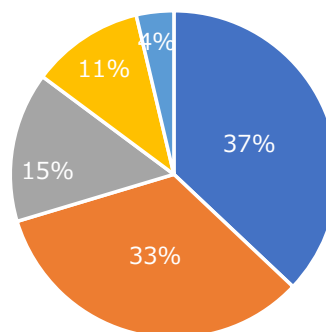
オープンチャット参加数：50名

参加回数



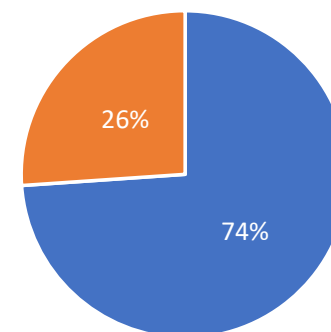
■ 4回 ■ 3回 ■ 2回

流入経路



■ 奇二准教授 ■ 関係者 ■ 知人 ■ メルマガ ■ 新聞

事前オンライン説明会(9月11日)



■ はい、参加します ■ いいえ、参加できません

ペイドメディアを利用せず関係者のクチコミによる告知で集客

プログラムのガイダンスを担当する立教大学・奇二准教授の生徒、ゼミ生、関係者が約4割を占める。次いで連携企業のメンバーによる個人的なSNS等での発信による集客である。信頼性の高い人物からのクチコミだったため、参加者の質が高く、関係人口の増加をゴールとする生坂村にとってはターゲットが合致した。

連携5社による相互プレスリリース

第2のふるさと
A NEW HOMETOWN



KNT-CT Holdings Co., Ltd. Group
2024年7月19日【第24-09号】

News Release

長野県生坂村を舞台に企業連携による新たな観光プロジェクトを始動
いくさか『創造の森』リジェネラティブ・ツーリズム
～テーマは「ネイチャーボジティブと何度も訪れたくなる第2のふるさとづくり」～

クラブツーリズム株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：酒井博、以下クラブツーリズム）は、長野県生坂村および連携各社と共に、新たな観光事業の一環として、いくさか『創造の森』を舞台とした「リジェネラティブ・ツーリズム」に取り組むことを発表いたします。テーマは「ネイチャーボジティブと何度も訪れたくなるふるさとづくり」。生坂村・いくさか『創造の森』を舞台に、全6回のツアーズを通じて参加者を「生坂村公式研究員（ネイチャーフェロー）」として認定する本プログラムは、生物多様性に関心のある方々に向けた新たな可能性を提供します。プログラムには、生坂村をホームタウンとするリーグサッカーチーム株式会社松本山雅からもガイド候補生が参加予定です。

この取り組みは、生坂村、株式会社松本山雅、クラブツーリズム、株式会社フューチャーセッションズ、合同会社HITTSYO、株式会社大広の5つの企業がコンソーシアム形式で協力して進めています。それぞれの企業が持つ専門性とネットワークを活かし、多角的な視点からプロジェクトを支援します。

公式サイト：<https://tabisuruikimono.com>



事業が実施される背景：
長野県生坂村は、美しい自然環境と豊かな生物多様性を誇る地域として知られています。近年、気候変動や環境破壊が進行する中で、地域社会として持続可能な未来を築くための取り組みが求められています。生坂村として「生坂村宣言」を2023年に環境省の選定する「脱炭素先行地域※」に選定されており、生坂村全体のカーボンゼロ宣言を2023年に発表しています。そのような背景を持つ同地を舞台に、地域全体でのカーボンニュートラルを目指すとともに、新たな観光の形として「リジェネラティブ・ツーリズム※」に着目しました。

※脱炭素先行地域とは、国土交通省「脱炭素先行地域」に基づき、2050年カーボンニュートラルに向けて、国が「地域脱炭素ロードマップ」及び「地球温暖化対策計画」に基づき、2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてその他の温室効果ガス排出削減についても、我が国全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域です。

※リジェネラティブ・ツーリズムとは、これまでの消費中心の観光とは異なり、訪れた土地の自然環境や文化を学び、適切な手法で手を加え、より良い姿に再生することを目指す新しい観光のスタイルです。

HITTSYO

合同会社HITTSYO
〒388-7201 長野県東筑摩郡生坂村万平7047

2024年7月19日
(1枚目/全2枚)

による新たな観光プロジェクトを始動
リジェネラティブ・ツーリズム
何度も訪れたくなる第2のふるさとづくり」

久、以下HITTSYO）は、長野県生坂村および連携各社と共に、新たなリジェネラティブ・ツーリズム」に取り組むことを発表いたします。テーマは「ネイチャーボジティブと何度も訪れたくなるふるさとづくり」。いくさか『創造の森』を舞台に、全6回のツアーズを通じて参加者を「生坂村公式研究員（ネイチャーフェロー）」として認定する本プログラムは、生物多様性に関心のある方々に向けた新たな可能性を提供します。プログラムには、生坂村をホームタウンとするリーグサッカーチーム株式会社松本山雅からもガイド候補生が参加予定です。

株式会社フューチャーセッションズ、合同会社HITTSYO、株式会社大広の5つの企業がコンソーシアム形式で協力して進めています。それぞれの企業が持つ専門性とネットワークを活かし、多角的な視点からプロジェクトを支援します。



tabisuruikimono.com

背景

で知られています。近年、気候変動や環境破壊が進行する中で、地域社会として持続可能な未来を築くための取り組みが求められています。生坂村として「生坂村宣言」を2023年に環境省の選定する「脱炭素先行地域※」に選定されており、生坂村全体のカーボンゼロ宣言を2023年に発表しています。そのような背景を持つ同地を舞台に、地域全体でのカーボンニュートラルを目指すとともに、新たな観光の形として「リジェネラティブ・ツーリズム※」に着目しました。

カーボンニュートラルに向けて、民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてその他の温室効果ガス排出削減についても、我が国全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域です。

※リジェネラティブ・ツーリズムとは、これまでの消費中心の観光とは異なり、訪れた土地の自然環境や文化を学び、適切な手法で手を加え、より良い姿に再生することを目指す新しい観光のスタイルです。

生坂村万平7047

2024年7月19日
株式会社フューチャーセッションズ

による新たな観光プロジェクトを始動
リジェネラティブ・ツーリズム
何度も訪れたくなる第2のふるさとづくり」

有富英幸、本社：東京都渋谷区）は、長野県生坂村および連携各社と共に、新たなリジェネラティブ・ツーリズム」に取り組むことを発表いたします。テーマは「ネイチャーボジティブと何度も訪れたくなるふるさとづくり」。いくさか『創造の森』を舞台に、全6回のツアーズを通じて参加者を「生坂村公式研究員（ネイチャーフェロー）」として認定する本プログラムは、生物多様性に関心のある方々に向けた新たな可能性を提供します。プログラムには、生坂村をホームタウンとするリーグサッカーチーム株式会社松本山雅からもガイド候補生が参加予定です。

クラブツーリズム株式会社、株式会社大広、合同会社HITTSYO、株式会社フューチャーセッションズの5つの企業がコンソーシアム形式で協力して進めています。それぞれの企業が持つ専門性とネットワークを活かし、多角的な視点からプロジェクトを支援します。



株式会社松本山雅
〒390-0825 長野県松本市並柳 1-10-20

2024年7月19日
MY-048 (1枚目/全2枚)

による新たな観光プロジェクトを始動
リジェネラティブ・ツーリズム
何度も訪れたくなる第2のふるさとづくり」

社長：小澤修一）は、長野県生坂村および連携各社と共に、新たなリジェネラティブ・ツーリズム」に取り組むことを発表いたします。テーマは「ネイチャーボジティブと何度も訪れたくなるふるさとづくり」。いくさか『創造の森』を舞台に、全6回のツアーズを通じて参加者を「生坂村公式研究員（ネイチャーフェロー）」として認定する本プログラムは、生物多様性に関心のある方々に向けた新たな可能性を提供します。プログラムには、生坂村をホームタウンとするリーグサッカーチーム株式会社松本山雅からもガイド候補生が参加予定です。

株式会社、株式会社フューチャーセッションズ、合同会社HITTSYO、株式会社大広の5つの企業がコンソーシアム形式で協力して進めています。それぞれの企業が持つ専門性とネットワークを活かし、多角的な視点からプロジェクトを支援します。



tabisuruikimono.com

背景

で知られています。近年、気候変動や環境破壊が進行する中で、地域社会として持続可能な未来を築くための取り組みが求められています。生坂村として「生坂村宣言」を2023年に環境省の選定する「脱炭素先行地域※」に選定されており、生坂村全体のカーボンゼロ宣言を2023年に発表しています。そのような背景を持つ同地を舞台に、地域全体でのカーボンニュートラルを目指すとともに、新たな観光の形として「リジェネラティブ・ツーリズム※」に着目しました。

カーボンニュートラルに向けて、民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてその他の温室効果ガス排出削減についても、我が国全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域です。

※リジェネラティブ・ツーリズムとは、これまでの消費中心の観光とは異なり、訪れた土地の自然環境や文化を学び、適切な手法で手を加え、より良い姿に再生することを目指す新しい観光のスタイルです。

〒390-0825 長野県松本市並柳 1-10-20 <TEL> 0263-88-5490 <FAX> 0263-88-5491

株式会社 大広 戦略広報室
<http://www.daiko.co.jp/>

2024年（令和6年）7月19日

による新たな観光プロジェクトを始動
リジェネラティブ・ツーリズム
何度も訪れたくなる第2のふるさとづくり」

社長：泉恭雄、以下「大広」）は、長野県生坂村および連携各社と共に、新たなリジェネラティブ・ツーリズム」に取り組むことを発表いたします。テーマは「ネイチャーボジティブと何度も訪れたくなるふるさとづくり」。いくさか『創造の森』を舞台に、全6回のツアーズを通じて参加者を「生坂村公式研究員（ネイチャーフェロー）」として認定する本プログラムは、生物多様性に関心のある方々に向けた新たな可能性を提供します。プログラムには、生坂村をホームタウンとするリーグサッカーチーム株式会社松本山雅からもガイド候補生が参加予定です。



「つくりプロジェクト」モデル実証事業の一環として企画

「何度も訪れたくなるふるさとづくり」。いくさか『創造の森』を舞台に、全6回のツアーズを通じて参加者を「生坂村公式研究員（ネイチャーフェロー）」として認定します。

とする「リーグサッカーチーム株式会社松本山雅」からもガイド候補生が参加予定です。

山雅、クラブツーリズム（株）、（株）フューチャーセッションズの5つの企業がコンソーシアム形式で協力して進めています。

会社 大広 戦略広報室
TEL: 03-4346-8111 MAIL: info@daiko.co.jp

ウェブページの公開とツアー申込日に合わせた7月23日

虎ノ門ヒルズARCHにて企業向け事業ピッチを開催

総勢72名が参加！

問い

「今日は、どんなことを期待して参加されましたか？」

ネイチャーポジティブを知らないので理解したい！
具体的な施策が無くて困っている！
生坂村に興味がある！
松本山雅FCやサッカーが好き！



6回は行けないが生坂村への企業視察を行いたい

リジェネラティブツーリズムに社員を研修として参加させたい

企業としていくさか『創造の森』に関われるのか

プログラムの内容

第2のふるさと
A NEW HOMETOWN

第1回目：9月15日（日）開催 （参加人数：22名 スタッフ：15名 総勢：37名）

生坂村現地調査①～創造の森を調査してみよう！～

【工程表】

- 12時30分 いくさか『創造の森』にてオリエンテーション（参加者全員の自己紹介）
- 13時30分 アクティビティ①『創造の森』ツアー&モニタリング
- 14時30分 軽食タイム（勝家おやき+『創造の森』で収穫したバターナッツカボチャのスープ）
- 15時00分 地元ゲストトーク（ゲスト：「にわにわ養鶏場」佐久間拓郎さん）
- 15時30分 アクティビティ② 調査データ共有
- 16時00分 アクティビティ③『創造の森』にセンサーカメラを仕掛ける
- 16時40分 本日の振り返り
- 17時20分 解散

プログラムのゴール

全6回の本プログラムツアーは以下の3つのアウトプットが生まれている状態を目指します。

1. 「いくさか『創造の森』マップ2025」
→調査結果・アクション内容をプロットしたマップ
2. 「いくさか『創造の森』未来マップ2035」
→いくさか『創造の森』の未来のありたい姿を参加者と共創したマップ
3. 「ネイチャーポジティブMyアクション」
→ありたい姿に向かって自分が取り組みたいアクションや研究テーマ



松本山雅・ガチャこと片山さんによる緊張を解くためのアイスブレイク。初めましての参加者同士で自己紹介をしい、相手のニックネームや好きな食べ物などを発表していく。笑いに包まれた会場はやがて和やかなムードに。



立教大学・奇二准教授によるネイチャーポジティブに関する世界の最新動向を聴講。熱弁を振るわれました！



雲が切れ竹林を散策



佐久間さんをゲストに迎え循環型養鶏のお話をたっぷり30分ご案内いただきました。



村長からご挨拶をいただいよいよプログラムスタート！



我が村が誇る伝統食。勝家おやき♡



にわにわ自然養鶏の卵を使った手作りパウンドケーキ♡



初めて鶏を胸に抱きニコニコの笑顔

2024年度「旅するいきもの大学校！」
第1期生のミッション

30by30のアライアンスに参加登録を行い
令和7年度後期の「自然共生サイト」登録を目指す

①参加のきっかけは「関係者からの紹介」または「大学関連（学生）」

- ・リジェネラティブデザイン（<https://regenerative-design.college/>）で知ったという方＝関連メディア
- ・メルマガ「くらしふと信州」を通して知った方＝地元メディア
- ・大学生は大学の教授や講義を通して参加を決めた方＝大学チャネル

②ツアーの大きな方向性やビジョンに共感

- ・リジェネラティブツーリズムが目指す大きな方向性・ビジョンには共感が得られている
- ・「正解」のない中で、事務局が手探りながらも実行を進めている姿勢にも共感が得られている
- ・自然に関心のある参加者が多いことや、事務局も含めたフラットな関係性にも共感が得られている

③より能動的な参加や参加者同士/住民との交流をしたい

- ・住民の方々との交流をもっとしたい、『創造の森』以外のエリアにも行ってみたい、という要望/期待もある
- ・今回は一連のプログラムを体験したが、今後は自分たちがより能動的に参加してみたいという要望/期待もある
- ・自然再生活動をきっかけとして、村の活動への参加や地域活性化への取り組みへの関心が見られる

申し込み（参加者数）

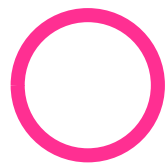
参加満足度

リピート意向

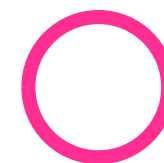
結果



4回参加以上20名
1回参加以上30名
が参加



86%
がツアー内容に満足



86%
がまた来たい

申込時に期待したこと

#ネイチャーポジティブや自然共生の実体験を通した学び/地方創生/交流

- 親子で取り組むことで、自分だけではなく子供の世界が広がればいいと思い参加しました
- リジェネラティブアクション、ネイチャーポジティブについて、初歩的なところから学びたい
- 生物多様性について、実際のフィールドで体験しながら考えられそうだと感じて申し込みました
- 地域活性化の手法の一つとして、今回のような取り組みの有効性を確認したかった
- 都市部の方の地方の取組みや関わり方に関するニーズについて把握したかった
- サステナブルとは、脱炭素社会とは、生物多様性とは、といった、世間で詠われている言葉の真意を知りたかった。また、それが現実とどう繋がっているのかが見たい

ポジティブ意見 #参加者・地域の方との出会い/場のビジョン/共創

- このテーマに熱い、様々な世代、属性の方々がいらっしやることを知れた。
- 想像以上の「なにもない」をビジョンによってコンテンツ化して、都市住民にとって初めての体験を生み出していたと思います。
- まだ創りかけのところを、多種多様な人種が集まって、共通したテーマで対話することが面白かった。
- オプションツアーの参加で、地域の人たちとかかわり、その思いなどをより知ることが出来た。
- 普段の生活ではできない体験を楽しく参加できたこと、このツアーで新しい出会いがあったこと、年齢層も職業も異なる様々な土壌で活躍されている方々と関わることが新鮮でした。

フィードバック #能動的に関わる・交わる余白/目的のリマインド

- もう少しゆとりのある時間設定だったらと感じました
- すでに決まっている物に対してのみ動いていたのでこちら側が考えて行動することがなかった。
- 生物について色々知れて楽しかったです。一方で、リジェネラティブの印象はそこまで強くなく、少しギャップがありました。
- 私たちのワークの目的や実際のワークがどうなっていくのかなど、もう少し座学の時間や定期的に振り返る時間などがあっても良かったかもしれない。
- 参加者が「自分の土地ではないから、好き勝手なことは言いづらい」という遠慮があった

ポジティブ意見 #人との繋がり/自然/愛着

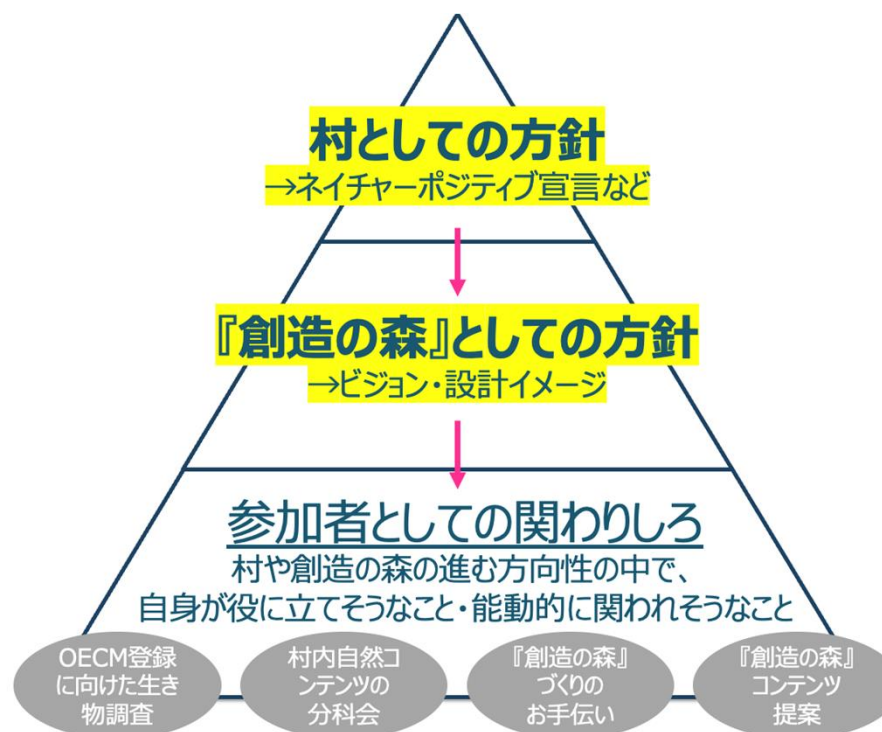
- 事務局の方々がとてもアットホームで、第二の故郷のように感じた。とても心温まる環境だった。
- 創造の森に愛着が湧いたから。
- 「自分にとっての魅力ある人とのつながり」ができたからまた行きたいと思う。
- 一度係わった、みなさん、地域、自然など、一緒に盛りたてたいと思った。このことが、地域の自然、生態系、住む人達の文化などの保全につながるのか、確認してみたくなった。
- 季節毎に変わっていく自然を見てみたいと思いました。
- この取り組み内で、実際に村に在住の方と触れ合う機会が多く、その魅力が十分理解できた。地域の特性と人柄に惹かれました。

フィードバック #交通費

- 交通費の自己負担額だけでも多額になり継続が難しい
- 生坂村は好きだが、金銭的に行くことが大変だから。

来訪目的及び関わりしろの明確化

今回はツアーを通して何度も生坂村に訪れ、第2のふるさととして深く関わっていただく機会を作ることができた。一方で、終盤の話し合いでは、**いくさか『創造の森』**の大きい方針を話す上で「**住んでない外の人間が好き勝手言う事**」に遠慮を感じるという意見も。主体として大きな方針を明確にした上で、その道程の手段をみんなで考えていく、という形にすることで、**関わりしろ**がより見えやすく、参加も能動的になっていくと思われる。





【講評】

山間部や農村地域の遊休地や耕作放棄地を活用して地元の住民との交流を通じて再生していくプログラムは類似地域でも応用可能である。本プログラムの企業視察には東京から7社が参加しており、今後はサステナビリティ領域での企業との連携による地域支援や活動など広がりも期待される。

【受賞コメント】

今回のプログラムには、世代も仕事も暮らしている地域も違う方々へ参加してもらう事が出来ました。実際に自然に手を加えたり、生物調査を行ったりというフィールドワークに取り組みながら、自然の中で楽しむ地産の食事や地域の方々との交流など、有意義な体験を創出できたと考えています。この取り組みを持続し、「ネイチャーポジティブ」のモデル事例となるよう引き続きプロジェクトを推進していきたいと思います。

【第2回サステナブルな旅アワード】

官公庁が実施する事業。持続可能な観光の推進に寄与する優良な旅行商品・取組みについて、メディア等を通じて広く国内外に発信していくことで、我が国における持続可能な観光への取組、旅行者の意識醸成の更なる促進を図っていくことを目的とされています。

本事業を自走化するためにも企業視察の受入を検討。10月18日に第1回を開催した。

地域貢献やウェルビーイング向上につながる
「生物多様性保全型」企業の社員研修・福利厚生のご提案

「地域貢献、従業員やその家族からのウェルビーイング向上に」

自然環境への理解促進を図る「従業員向け研修」:

生坂村の里山の成り立ち、里山と私たちの日常のつながりを知る。いくさか『創造の森』の自然再生への取り組みに参加し、自然環境や生物多様性への理解を深めます。

いくさか『創造の森』の里山再生活動に参加する「フィールドワーク」:

伝統文化の探索と価値形成による持続可能なコミュニティをデザインをする生坂村にある合同会社が行う「大地の再生」、「自然栽培による多品種を育む農業」、「オフグリッドハウス作り」に参加します。非日常の体験を通じ、チームビルディングやウェルビーイングの向上につながります。

従業員家族への福利厚生「ファミリー向け生き物教室」:

従業員だけではなく、子どもを含めた家族の参加も可能。子どもの頃の自然体験は、子どもの自己肯定感や非認知能力を高めることにもつながるという研究結果も出ています。

事業者の地域貢献につながる:

活動に事業者と一緒に取り組むことで、関係人口が増加し、過疎化や高齢化といった生坂村の抱える地域課題の解決に寄与し、事業者の地域貢献の一つの形になると考えています。

12:00

現地集合（JR明科駅から村内への送迎付き）

12:30

いくさか『創造の森』にてオリエンテーション

13:00

いくさか『創造の森』にて昼食

14:00

いくさか『創造の森』で実際に自然に手を加える（リジェネラティブプログラム体験）

15:00

生坂村役場表敬訪問 + 松本山雅とのディスカッション（村長挨拶～村づくり推進室長に脱炭素先行地域づくり事業についての取組紹介～株式会社松本山雅とのディスカッション）

16:00

村内周遊

17:00

現地解散（村内からJR明科駅への送迎付き）

7月23日虎ノ門ヒルズ・ARCHにて行われた企業ピッチ参加企業を中心に7社が参加した。

来訪を促す体験価値とコミュニティづくり

クラブツーリズム株式会社

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

- ① 趣味などを通じた「目的型コミュニティづくり」
- ② お客様共創活動を通じた「生きがいづくり」
- ③ 来訪を促す好循環の仕組みづくり

中村 朋広

クラブツーリズム株式会社
取締役 マーケティング本部 副本部長

1990年近畿日本ツーリスト入社。
2004年分社化によりクラブツーリズムへ転籍。

入社から旅のダイレクトマーケティングビジネスを通じ、
国内、テーマ、海外旅行の企画販売に従事。

旅を「経験型商品」と位置づけ、
「出会い」「感動」「学び」「体験」「交流」を企画に積極的に採り入れ、
顧客創造経営に取り組んでいる。

2020年からは新クラブ1000構想を宣言し、
趣味趣向に合わせたコミュニティを形成させ、
クラブ活動的な趣味を通じた仲間づくり、
旅の新しい楽しみ方などコミュニティビジネスへのチャレンジ、
地域共創事業、グローバル事業など、
旅行外ビジネスの担当役員として「コミュニティサービス産業」の確立を目指している。





日帰り旅行から世界一周クルーズ、そして趣味のコミュニティから宇宙旅行まで。
クラブツーリズムの旅は、旅先での出会いや学び、五感を揺さぶる感動をお届けします。

旅行事業

- ▶国内旅行 ▶海外旅行 ▶バス旅行
- ▶テーマ旅行 ▶クルーズ旅行
- ▶宇宙旅行 ▶ゆったり旅(フレイル)
- ▶訪日旅行 ▶着地型旅行 など

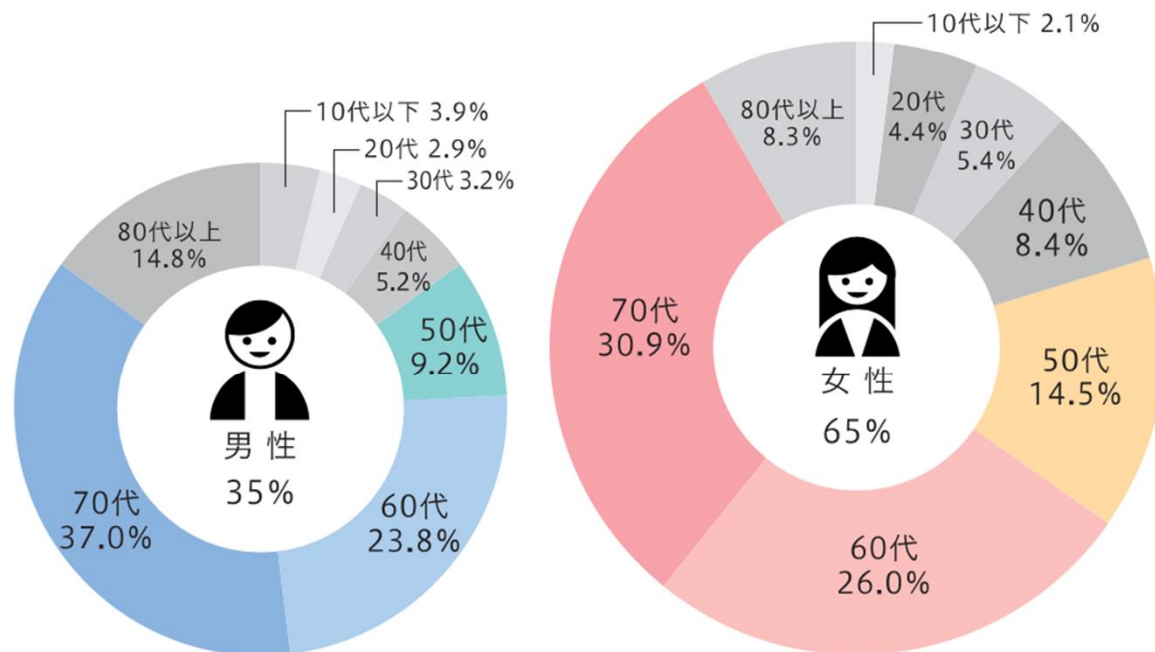
旅行外事業

- ▶地域共創事業
- ▶新クラブ1000事業
- ▶アライアンス事業(事業開発)
- ▶生活サポート事業、その他周辺事業

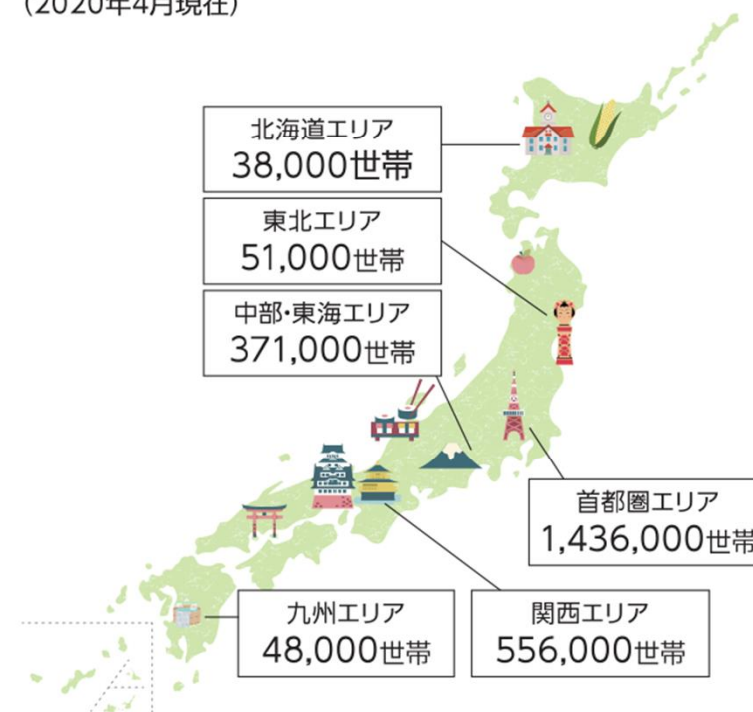
● クラブツーリズム会員データ

■ クラブツーリズム会員数 700万人

■ 「旅の友」発行部数 250万世帯／400万人



■ 「旅の友」配送世帯数
(2020年4月現在)



【企業理念】

旅を通して、出会い、感動、学び、健康、やすらぎの種をまき、
はつらつたる喜びに満ちた社会を花開かせていく

【ブランドメッセージ】

旅行業の役割とは、旅を通して心からゆっくりと文化や自然の素晴らしさを感じてもらうこと。

そこに新しい出会いや交流を作り出していくことだと考えています。

同じ趣味や興味について語り合う仲間がいれば旅はより深まり、仲間で感動や発見を分かち合う体験は、最高の喜びにつながります。

旅を通して仲間と出会い、仲間と旅を楽しみ、旅で共感しあった仲間が次々と増え、さらに旅の楽しみが広がっていく。
「仲間が広がる、旅が深まる」というメッセージは、私たちの夢であり、また、私たちの事業活動の根幹です。

旅を通じた「仲間づくり」「生きがいづくり」を推進
(コミュニティーサービス産業)

- ① 趣味などを通じた「目的型コミュニティづくり」
- ② お客様共創活動を通じた「生きがいづくり」
- ③ 来訪を促す好循環の仕組みづくり

新たな趣味との出会いや、自分の趣味を心ゆくまで満喫できる「テーマのある旅」



- ▶ 各テーマの専門スタッフが企画し、目的にこだわった高付加価値な旅を豊富に取りそろえると同時に、テーマごとのコミュニティを運営
- ▶ お客様データを分析し、お客様それぞれの趣味嗜好に合わせて選んだパンフレットをお届け

ターゲットを明確にした、満足度の高い体験価値づくり
趣味嗜好が同じ仲間との共有

日帰りの初級コースから登山を始め、スキルや体力をつけながら徐々にステップアップし、憧れの山の登頂を目指す。ひとりでの登山は心配な方でも気軽に趣味の登山を始めるきっかけとなっている。



YAMA LIFE CAMPUS

POWERED BY  YAMAP クラブツーリズム

登山アプリ利用者数No.1のYAMAPと共同運営

<https://ylc.yamap.com/>

山を楽しもう、人生を楽しもう

YAMA LIFE CAMPUSは、今よりもっと自由に、
山を楽しめる自分になるための登山ステップアップスクールです。

旅ナカだけでなく、旅マエ、旅アトの付加価値をつけて、
地域へ繰り返し通う、3ヶ月のスクール形式で学ぶ旅。



講師は山のエキスパート



オンラインとフィールド講習



コミュニティでのサポート体制

挑戦したいテーマを選び、同じ目標を持つ仲間とともに学ぶ。

- ▶登山基礎編 ▶テント泊編 ▶子を持つ親の登山編 ▶クライミング編 ▶雪山編
- ▶卒業生限定編 など

登山道整備編 @大雪山国立公園(北海道上川町など)

私たち登山者は、山の中で、きれいな空気を吸い、すばらしい景色を眺め、時には人との貴重な時間を過ごします。

登山を通して心身が健康になること、余暇の楽しみが増えることで、自分の人生を充実させています。

それらの恩恵を受けている私たちの足元には、道があります。

山に親しむ登山者の手で、未来に残る道をデザインしませんか？

自分が作った道を、日々たくさんの人が歩く。
道があることで、周囲の生態系や植生が守られる。

道づくりは、登山とは異なる面白さと感動を与えてくれる、
山の新たなアクティビティです。



地域と地域の人を知る

▶ 7月:自然をマネして、道をつくる

- ①オンライン講習 : オリエンテーション / 講師・参加メンバー紹介 / 大雪山の現状と侵食のメカニズム / 注目を集める職人技 “近自然工法”
- ②オンライン講習 : 自然地理学から見た大雪山の登山道と植生 / 地形の経年変化モニタリングと今後の傾向
- ③フィールド講習 : 生息する動植物の種類、川の流れや底に沈む石の状態など、自然観察による自然物の構造理解 / 生態系の把握 / 自然の景観に溶け込む道づくり

地域の課題や可能性を共有

▶ 8月:止まらない侵食。”再生”のスピードを加速せよ

- ①オンライン講習 : 大雪山が持つ “国宝級” の価値と特徴 / 大雪山に関わる人々の取り組みと課題・未来への展望
- ②フィールド講習 : 高山帯にある寒暖差が作りあげた芸術的な生態系を体感 / 砂礫地での登山道整備とは、崩れを見越した施工方法 / 自然の時間軸を考える植生復元

みんなで地域の未来を考える

▶ 9月:人が歩くほどに、山が美しくなる未来

- ①オンライン講習 : 近自然工法と公共工事 / 登山の「維持・管理」と「整備」の違い / 自分の能力を活かす場所としてのボランティア
- ②フィールド講習 : 踏圧侵食を防ぐための木道作り / 侵食防止と歩きやすさのバランスを考える / 人間が嫌いなドロドロ道は植物には必要な土壌、植物の視点で考える観察眼を養う
- ③オンライン講習 : 3ヶ月間の振り返り・学びの共有 / 次のステップアップと今後の道づくりへの関わり方について

プログラム参加費:160,000円（現地集合解散、フィールド講習時の北海道までの交通費除く）

- ✓ お客様の想い、お困りごと、などに着目
自己実現、知的好奇心を満たす体験価値に落とし込む
- ✓ 参加者に寄り添う
オンライン上でもコミュニティを運営し、日常でもつながりづくり
- ✓ 地域の多様な関係者を巻き込み、地域とのタッチポイントを増やす
- ✓ 高付加価値・高単価 ⇔ 持続的な取組に
*現在第3期まで終了、今年度より尾瀬国立公園でも開催

繰り返しのご参加や、プログラムを通じて現地へ移住する方も

旅を通して共に学び、感動し、成長しあえる仲間に出会うすばらしさ
仲間との旅により「自らの可能性を発見する喜び」を実感

- ① 趣味などを通じた「目的型コミュニティづくり」
- ② お客様共創活動を通じた「生きがいづくり」
- ③ 来訪を促す好循環の仕組みづくり

お客様との共創活動「クラブツーリズム キャスト」

旅と同じように、日常生活においても人生を彩るステージを創りたいと願い、お客様が弊社と共に、知識や好奇心を生かし、新たな価値を創る活動を推進しています。



フェローフレンドリースタッフ



エコースタッフ



ふるさと応援47スタッフ



カインドリースタッフ

【主な活動メニュー】

- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| ▶ フェローフレンドリースタッフ | 添乗員として旅の感動を深めるお手伝い |
| ▶ エコースタッフ | 旅行情報誌の配達を通して健康づくり、仲間づくり |
| ▶ ふるさと応援47スタッフ | 住んでるからこそ分かる地域の魅力を案内するなど、地域づくりのお手伝い |
| ▶ カインドリースタッフ | いくつになっても旅を楽しみたいお客様の旅のサポート |
| ▶ ぐっど楽(グッドラック)スタッフ | 高齢者の日常生活をサポートする家事代行 |

他にも多数の活躍の場を創出！

「クラブツーリズム キャスト」の声

人生変わりました

ツアーに参加した際、素敵な添乗員さんと出会い「こんな風になりたい」と憧れたのが始まり。

フェローフレンドリースタッフ仲間、乗務員さん、関係機関の皆さん、そしてお客様…

ツアーに関わった全ての方が仲間になります。

(フェローフレンドリースタッフ:添乗員として旅の感動を深めるお手伝い)

自分の知識と経験がお役に立てたら

旅行というステージで、介護の知識やホスピタリティを活かせる役割だと感じました。

ツアーに同行して「後ろにいてくれるから安心して旅行が楽しめた」と言葉をかけられて、自分がサポートすることで安心感を持てただけは大変嬉しく、今後も自分ができるサポートを続けていこうと思います。

(カインドリースタッフ:いくつになっても旅を楽しみたいお客様の旅のサポート)

生活に張り合いができました

定期的に配達があるということは、生活に張り合いがでて、運動にもなり、元気でいられる秘訣のひとつです。

(エコスタッフ:パンフレットの配達を通して健康づくり、仲間づくり)

家事を通して新しい発見も

主婦歴を活かせるお仕事ですが、始めてみると思った以上に、新しい発見があり家事の奥深さを感じています。家事知識の収集も欠かせません。サービスで自分なりのこだわりを生かしたなと思えるのもやりがいです。

(ぐっど楽スタッフ:高齢者の日常生活をサポートする家事代行)

- ✓ キャストに寄り添い、心を動かす
- ✓ 交流会やオンライン上のキャスト広場を通じて、活動ごとのコミュニティづくり
- ✓ 研修会など自己研鑽の機会を設ける
- ✓ 毎年、顕著な活動をされたキャストへ感謝を込めて表彰



それぞれの「好き」を大切に、「成長したい」という願いを育てる
積極的に「交流の機会と場」を提供
私たちとともに価値を作り、私たちと共に彩りのある人生を

- ① 趣味などを通じた「目的型コミュニティづくり」
- ② お客様共創活動を通じた「生きがいづくり」
- ③ 来訪を促す好循環の仕組みづくり



ご清聴ありがとうございました。

【お問合せ先】
クラブツーリズム株式会社 地域共創事業部
chiiki.kyousou@club-t.com